牟礼村遺跡詳細分布調査
報　告　書

―― 国宝重要文化財等保存整備（国庫補助）事業 ――

2000

長野県上水内郡牟礼村教育委員会

牟礼村遺跡詳細分布調査
報　告　書

―― 国宝重要文化財等保存整備（国庫補助）事業 ――

2000

長野県上水内郡牟礼村教育委員会

序

牟礼村には、道路の開発等に伴う発掘調査により、多くの遺跡・遺物が出土しています。その中には学術的に注目されるものが多く見られています。

今後、長野荒瀬原線の道路の開発が予定されており、埋蔵文化財の包蔵地が破壊・煙滅するおそれがないようにする必要があります。そこで、平成９年度より11年度までの３ヵ年計画で国庫補助事業として村内遺跡詳細分布調査を実施致しました。調査の結果、縄文時代から平安時代にかけての遺物を中心に、貴重な遺物が各所で新たに出土しました。

今までの調査は、昭和45年に県で一斉調査が行われたものであり、このたびの調査により埋蔵場所が点から面となり、分布図として今後の研究や調査に大きく役立つものとなります。

今回、本書の作成を契機に埋蔵文化財包蔵地の周知徹底をはかるとともに、関係機関をはじめ、広く村民の皆さんにも文化財愛護の思想を普及し、先人の残された貴重な文化財を破壊から保護しようと考えるものであります。本書が十分に活用されることを願っております。

終わりに、調査から本書作成にいたるまで御協力頂いた文化財調査委員をはじめ、関係された皆様に厚く御礼申し上げます。

平成12年３月31日

牟礼村教育委員会

教育長　山田　邦彦

例　　言

1　本書は牟礼村が国庫補助金を受けて、平成９、10、11年度に実施した村内遺跡詳細分布調査の報告書である。

2　調査は牟礼村教育委員会が主体となり、文化財調査委員を中心に調査組織を組み実施した。

3　分布図に示した遺跡範囲と一覧表に示した時代、出土遺物などは、分布調査、発掘調査の結果に聞き取りによる情報、『牟礼村誌』『高岡村のあゆみ』『中郷村史』『上水内郡誌』などの資料を加えたものである。今後、新しい情報や、発掘調査により修正がなされるものである。特に、踏査には限度があり、山林や荒れ地については全く不可能であり、果樹園についても下草がありほとんど不可能だったため、本書に掲載されていない新しい遺跡が発見される可能性は大きい。したがって特に山林や荒れ地の開発などには試掘調査が必要である。

4　遺跡の範囲については遺物の散布状況に地形、伝承を考え合わせた。

5　遺跡番号はこれまでのものを全廃した。

6　遺跡名は基本的に小字名をつけた。同じ小字名があるものについては地区名も加えた。
これまでの遺跡名もできるだけ尊重したが、明らかな間違いや混乱を生じているものについては改名した。

7　使用した地図は牟礼村の調製した縮尺10,000分の１の図である。

8　矢筒城縄張図については三島正之氏から玉稿を賜った。記して感謝申し上げる。

9　矢筒山地形測量は㈱写真測図研究所へ委託し、50㎝間隔の等高線で表した縮尺500分の１の地形図を作成した。

10　執筆、一覧表作成、編集は横山かよ子がおこない、分布図の作成、トレースは富岡鹿子、柳沢まち子が分担した。

11　本調査で作成された調査カード、採集された遺物は牟礼村教育委員会が保管している。

12　本調査にあたり、笹沢浩、佐藤慶二、市川隆之の各氏にご教示、ご指導いただいた。
また試掘調査は小柳正義、杉山頼衛、原田利隆の各地主の皆様のご理解とご協力のもとに実施できた。
そのほか踏査中には各所で村民の皆様にご協力をいただいた。また下記の皆様にはご所蔵の遺物をご提供いただいた。記して感謝申し上げる。
飯島浩文、大内武司、金井幸江、小池正巳、清水道夫、清水美津江、原田功、北條隆、丸山希代子、柳沢博見
（アイウエオ順、敬称略）

目　　次

序
例　　言
第1章　調査の経過……1
1　経過概要……1
2　調査組織……1
3　調査方法……2
第2章　遺跡分布図……3
1　牟礼村区画図……3
2　遺跡分布図……4
第3章　遺跡一覧表……20
1　遺跡一覧表……20
2　参考文献……25
第4章　遺跡試掘確認調査……26
1　矢筒山地形図……26
2　矢筒城縄張図……27
3　矢筒城の縄張……28
4　表町遺跡試掘調査……32
5　築地屋敷遺跡試掘調査……33
6　小丸山古墳試掘調査……34
第5章　埋蔵文化財の保護と取扱いについて……35

第１章　調査の経過

1　経過概要

牟礼村の遺跡分布図は「高岡村のあゆみ」「中郷村史」などの文献資料を参考に、主に昭和45年の県下一斉調査の資料を基にして作成された。しかし、残念なことにその地図も遺跡が点で示されているだけで、その範囲は不明であった。これでは近年増加してきた各種の開発に対処する資料としては適切でなく、もっと詳細な分布図が必要になってきた。そこで県の文化財・生涯学習課の指導のもとに、国庫補助金を受けて平成９年から11年の３年間で村内の遺跡詳細分布調査を行った。

以下、各年度ごとの経過概要である。

平成９年度

事業内容　平出、番匠、福井、四ッ屋、牟礼、小玉、黒川地区の踏査、遺跡台帳整理、遺物整理、矢筒山地形測量及び縄張り図作成

事 業 費　7,000,000円

平成10年度

事業内容　黒川、中宿、川上、柳里、高坂、坂口、地蔵久保、袖之山地区の踏査、遺跡台帳整理、遺物整理、試掘調査

事 業 費　2,000,000円

平成11年度

事業内容　再確認のための踏査、遺跡台帳整理、遺物整理、報告書作成

事 業 費　2,000,000円

2　調査組織

調 査 員　矢野恒雄、青山紫朗、丸山義一、高野永篤、北條正夫、原田幸衛（以上、牟礼村文化財調査委員）

調査指導　三島正之（中世城郭研究会）

協 力 者　小柳義男、前田竹千代、富岡鹿子、柳沢まち子

教育委員会事務局　教育長　山田邦彦

総務教育課長　金井元司（平成９・10年度）

青木　清（平成11年度）

同　係長　土屋龍彦

同　横山かよ子（調査主任・文化財担当）

同　小山丈夫　（文化財担当）

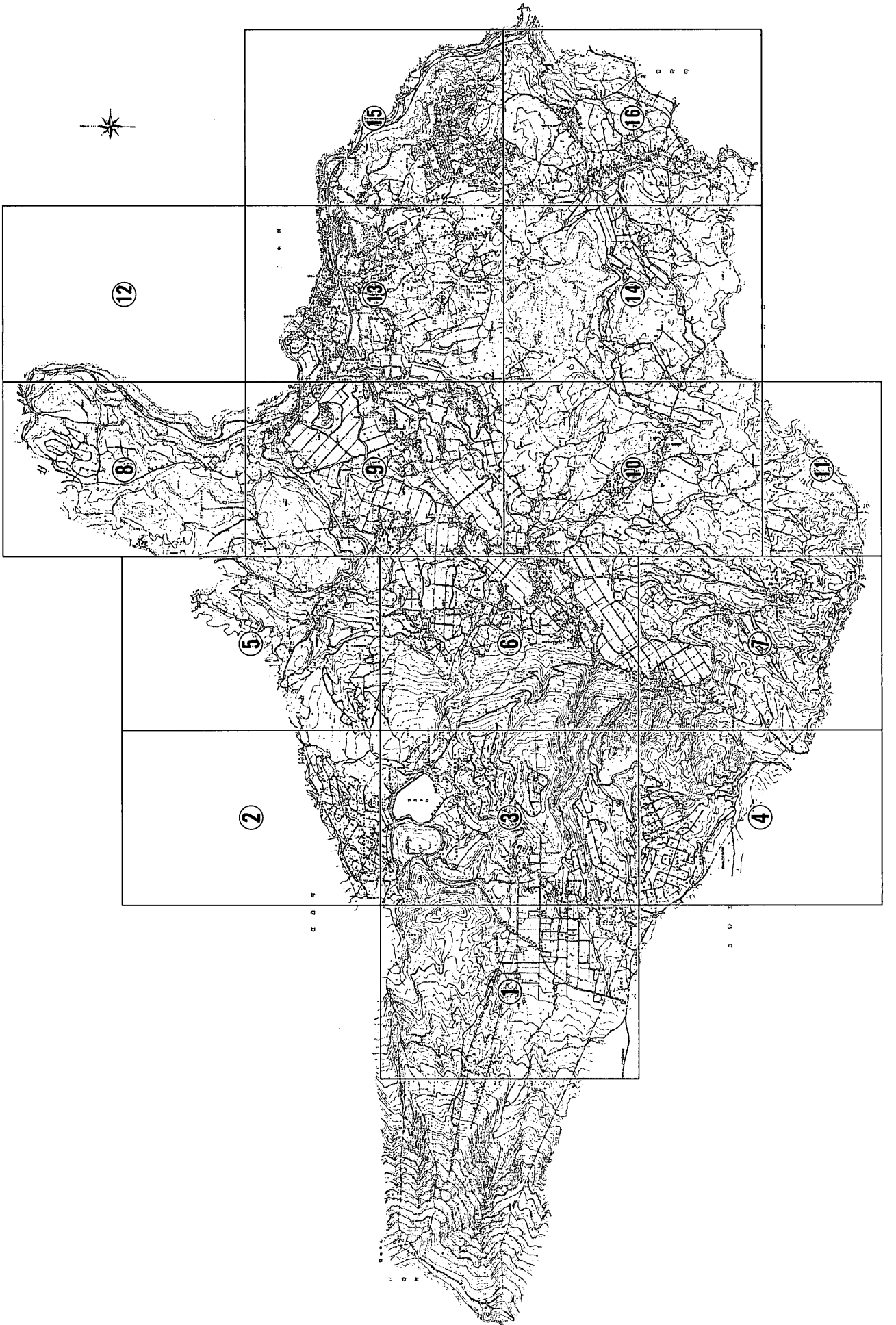
3　調査方法

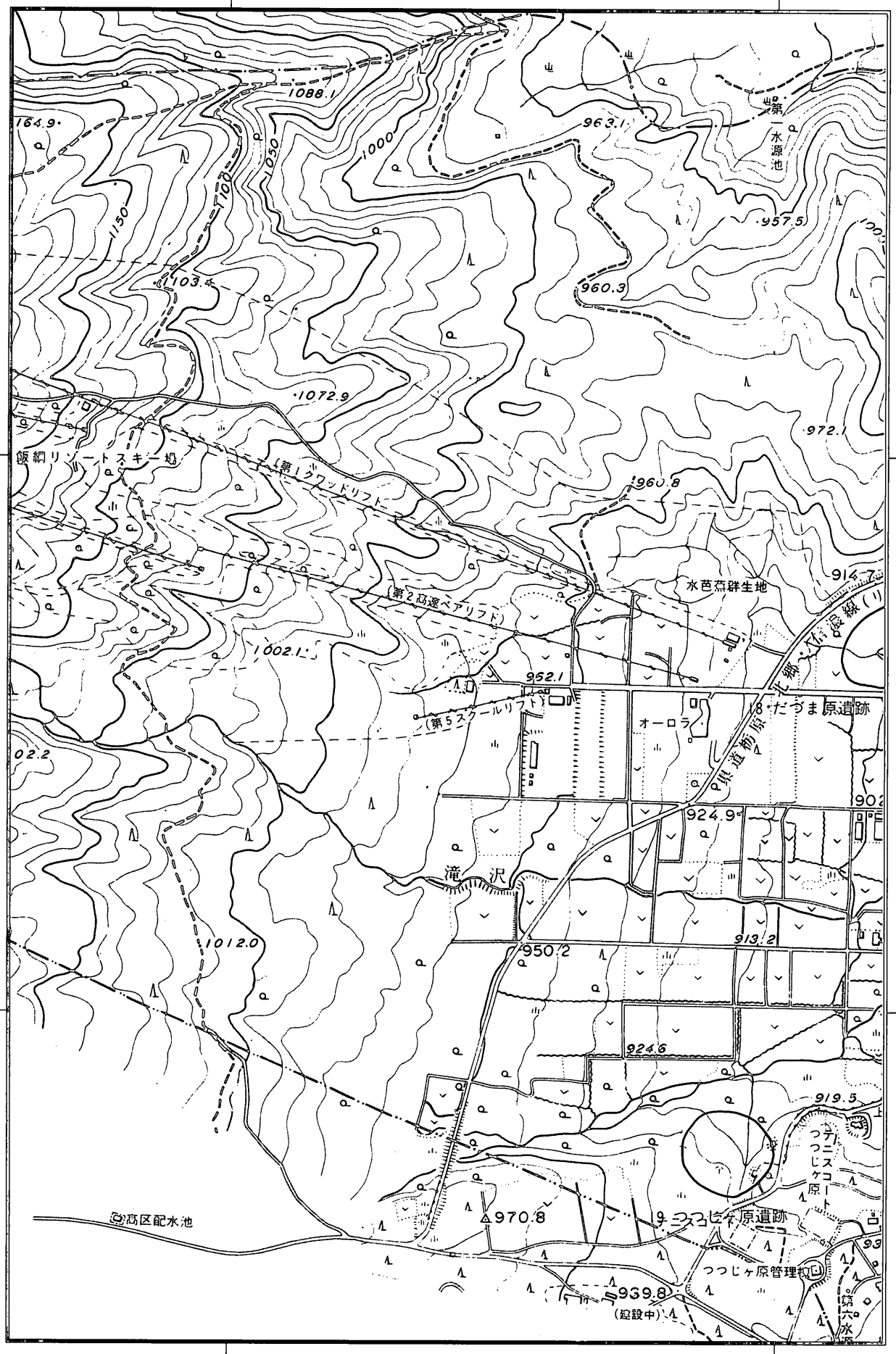
村を東地区と西地区に分け、主に平成９年度は東地区、平成10年度は西地区を調査した。最終年度は残った未踏査地域と文献資料の確認のためなど再調査を必要とする地域を調査した。

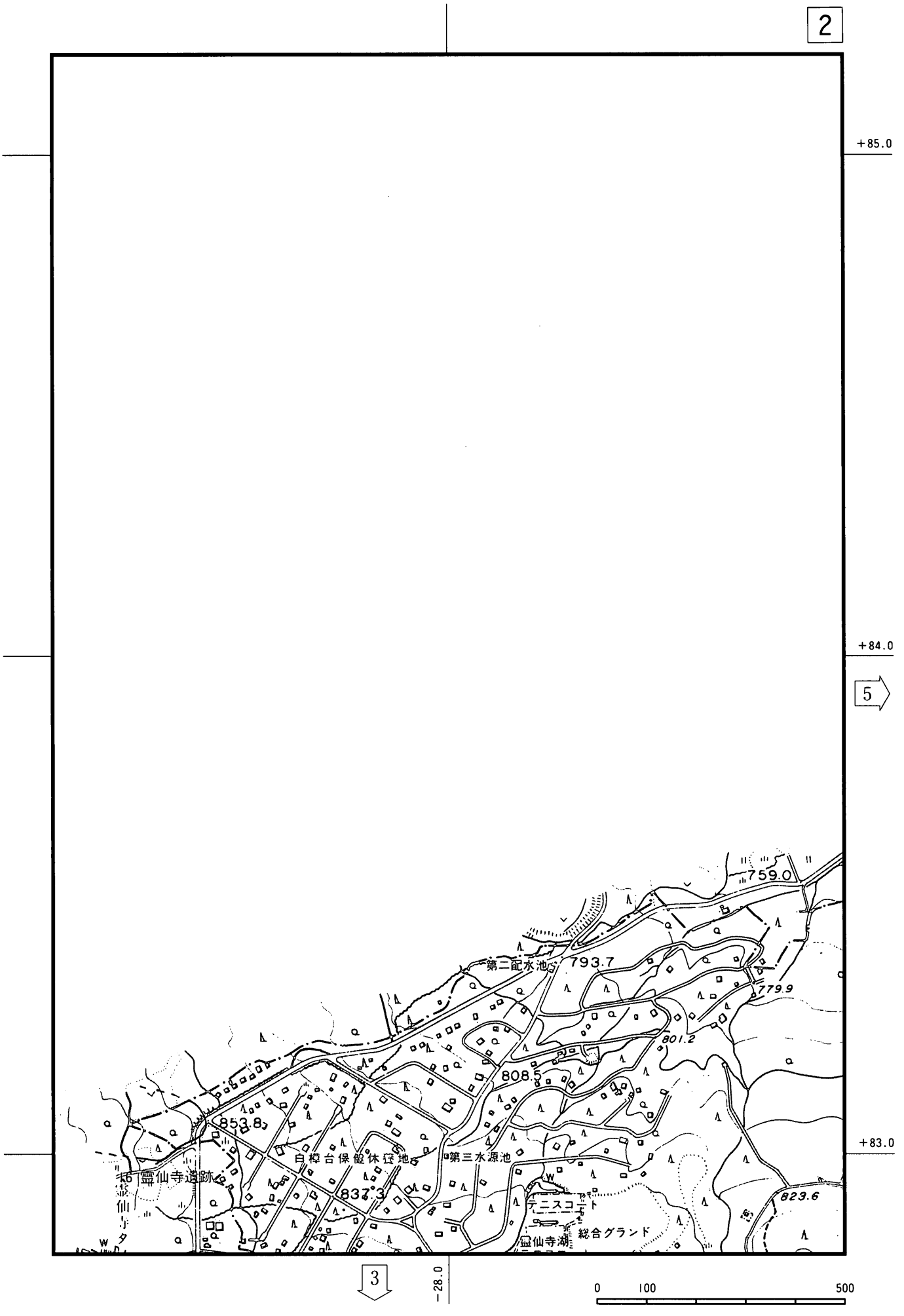
従来の遺跡分布図と牟礼村地籍集成図（2,500分の1）をもとに表面採集ができる地域を捜しながら可能な限り踏査した。採集した遺物はビニール袋に保管し、地図に地点を記入し、番号を付けた。採集地点の地形などを考慮しながら範囲をくくり、１枚のカードに地図を添付し、調査カードとした。こうして最終段階で、遺物の散布状況に、地形、文献資料、伝承などを加味して遺跡範囲、名称、時代を決定した。遺物は洗浄し、採集年度と採集地点番号を記し、番号順に保管箱に整理した。また調査カードには遺物拓影、写真を添付し整理した。これらの段階を踏んで本報告にまとめた。

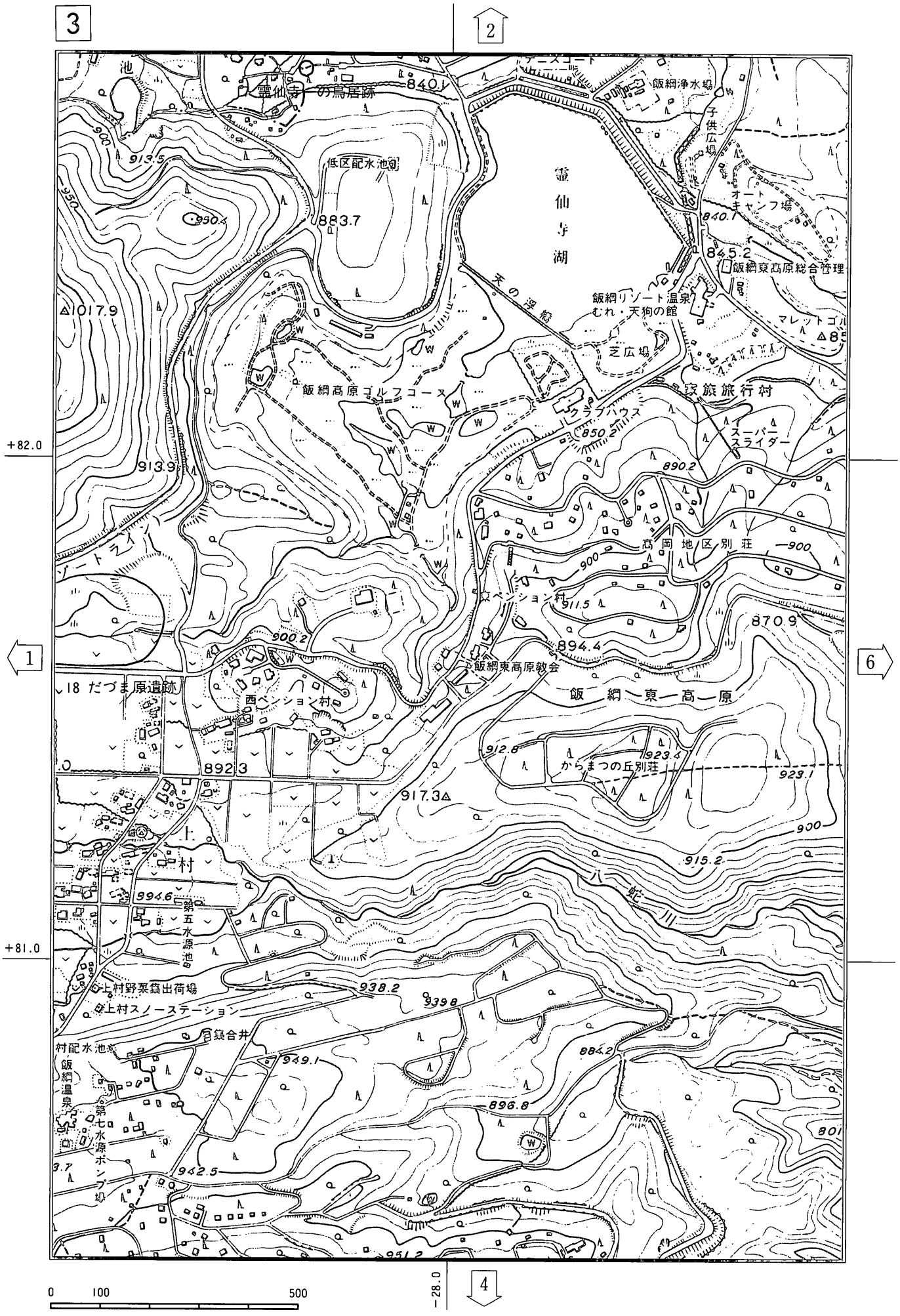
第２章　遺跡分布図

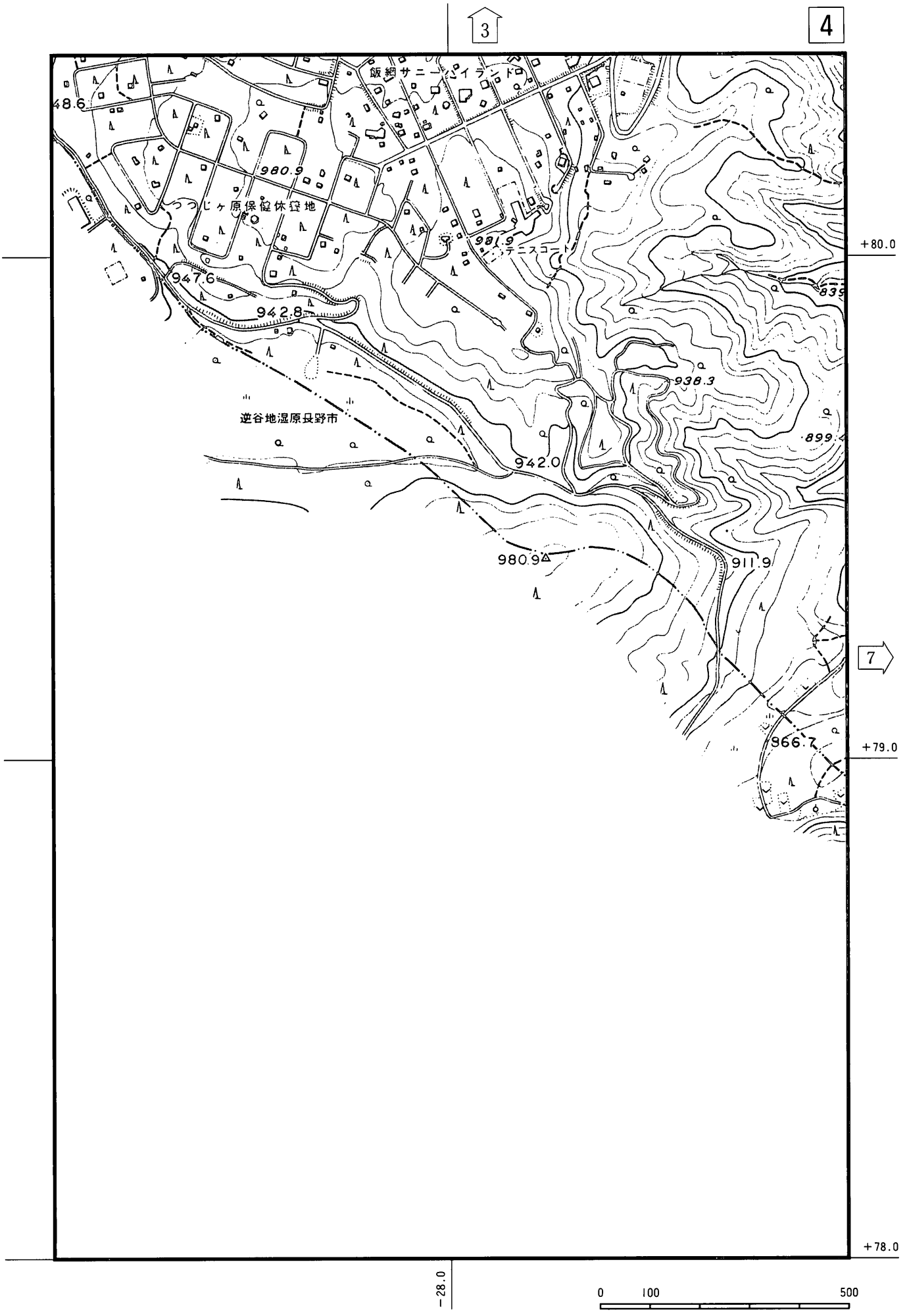
１　牟礼村区画図

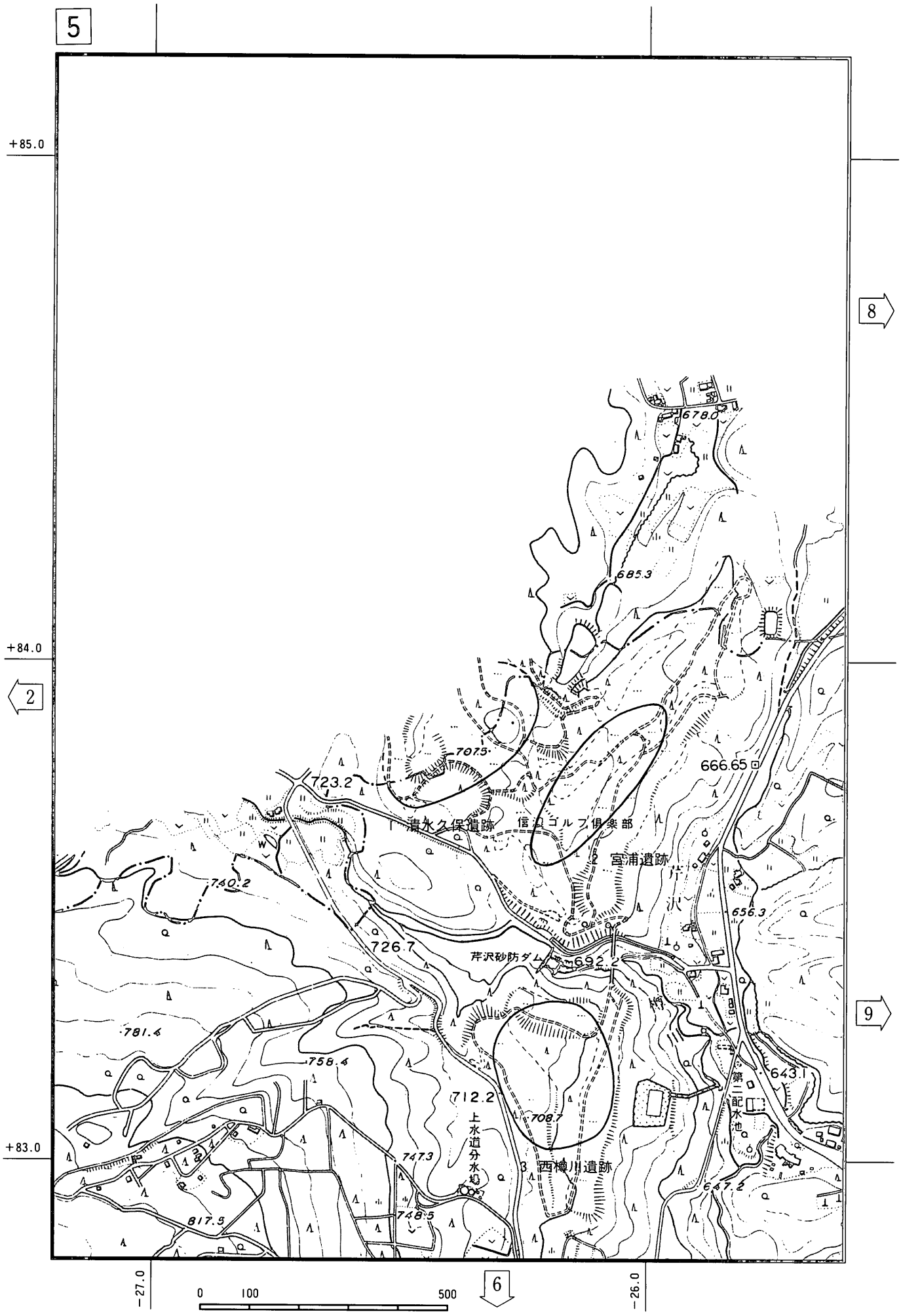


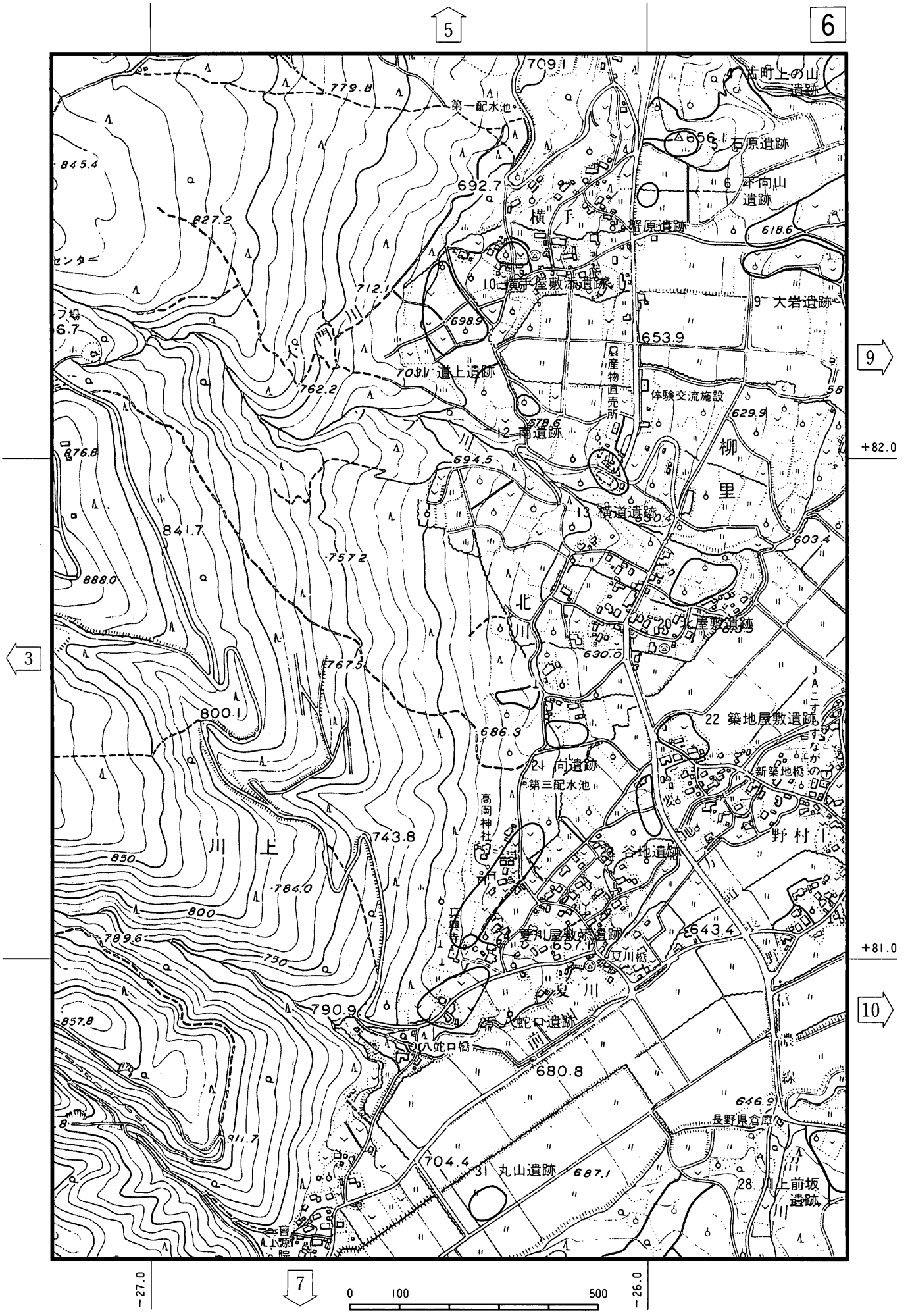

1
3
+82.0
+81.0
−30.0
−29.0
0
100
500
1088.1
1164.9
1150
1100
1050
1000
963.1
957.5
960.3
1103.4
1072.9
972.1
960.8
飯網リゾートスキー場
(第1クワッドリフト)
(第2高速ペアリフト)
(第5スクールリフト)
1002.1
952.1
水芭蕉群生地
オーロラ
18 だづま原遺跡
県道桐原
924.9
滝沢
913.2
950.2
1012.0
924.6
919.5
つつじヶ原
9 つつじヶ原遺跡
970.8
高区配水池
つつじヶ原管理所
939.8
(建設中)
第一水源池
第六水源

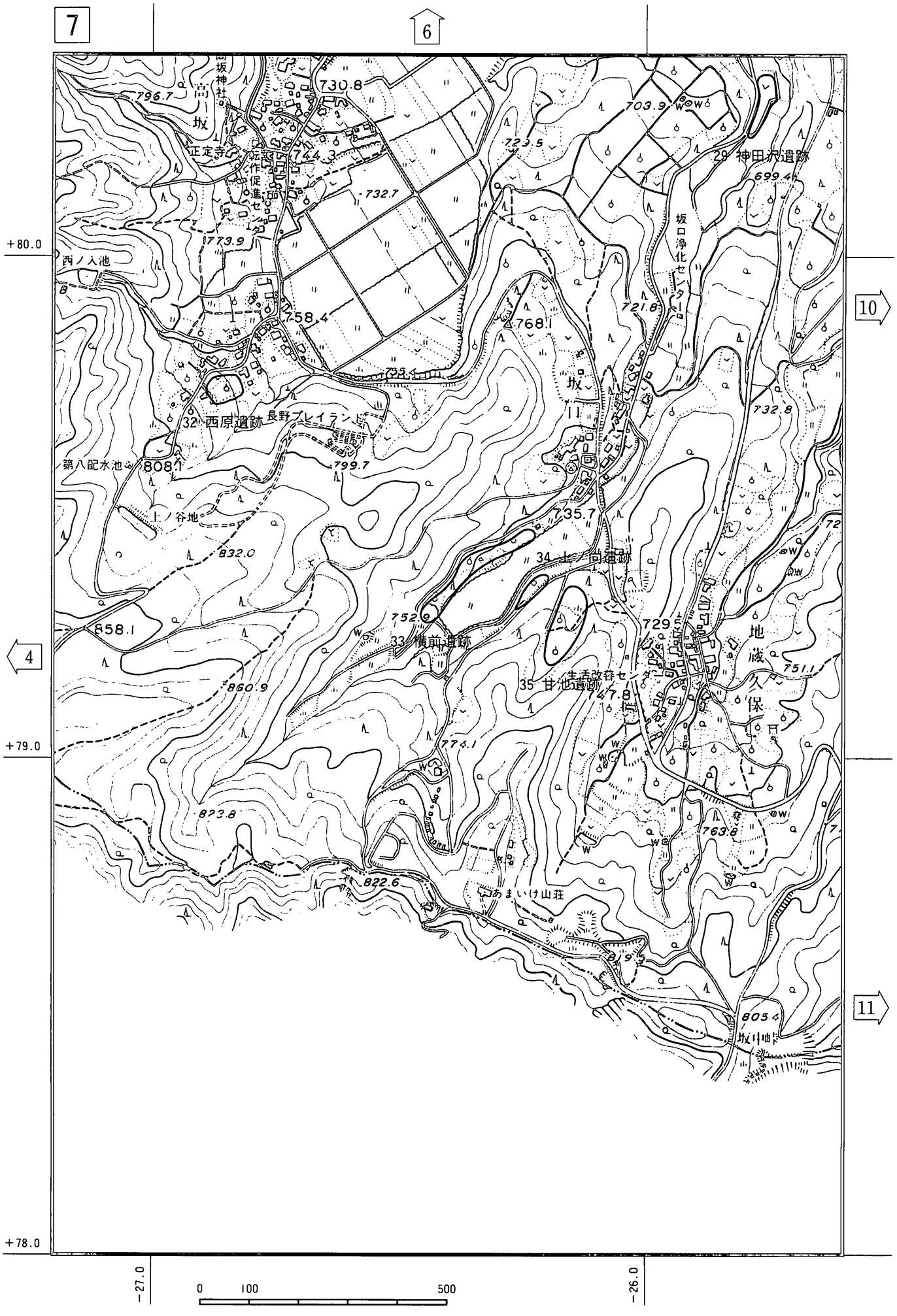

2
+85.0
+84.0
5
+83.0
759.0
第二配水池
793.7
779.9
801.2
808.5
853.8
白樫台保健休養地
第三水源池
6 霊仙寺遺跡
霊仙寺
837.3
テニスコート
霊仙寺湖
総合グランド
823.6
3
−28.0
0
100
500

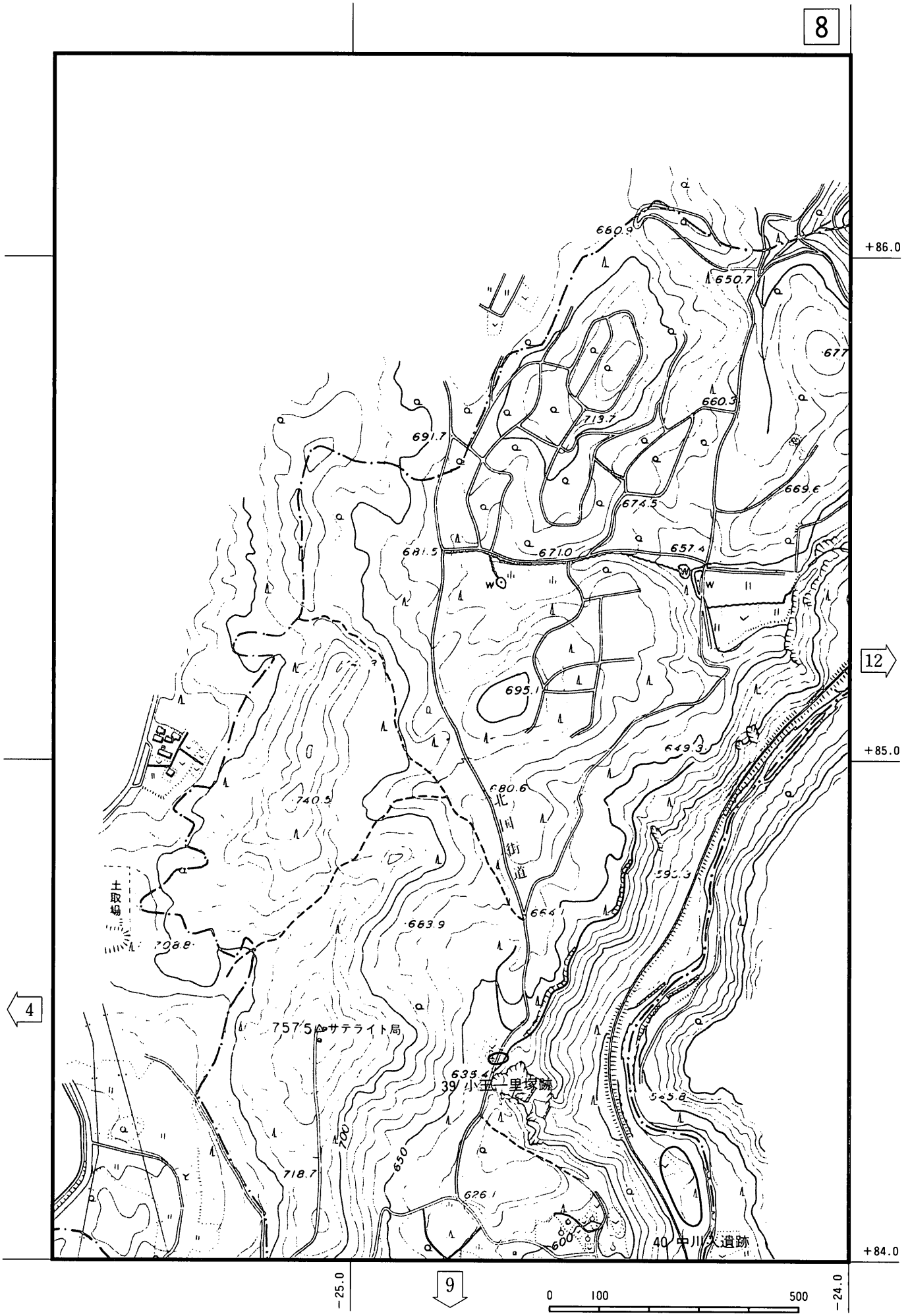

3
2
1
6
4
池
霊仙寺の鳥居跡
840.1
ゲートボール
飯網浄水場
子供広場
オートキャンプ場
840.1
845.2
飯網東高原総合管理
霊仙寺湖
天の浮橋
低区配水池
883.7
950.4
913.5
900
950
1017.9
飯網リゾート温泉
むれ・天狗の館
マレットゴル
芝広場
飯網高原ゴルフコース
家族旅行村
クラブハウス
850.2
スーパースライダー
890.2
+82.0
913.9
ゾートライン
高岡地区別荘
900
ペンション村
911.5
870.9
900.2
894.4
飯網東高原教会
18 だづま原遺跡
西ペンション村
飯網東高原
892.3
912.8
923.4
からまつの丘別荘
923.1
917.3
900
915.2
八ヶ岳川
村
994.6
第五水源池
+81.0
上村野菜出荷場
938.2
939.8
上村スノーステーション
墓合井
村配水池
884.2
949.1
飯網温泉
896.8
第七水源ポンプ場
942.5
951.2
0
100
500
-28.0

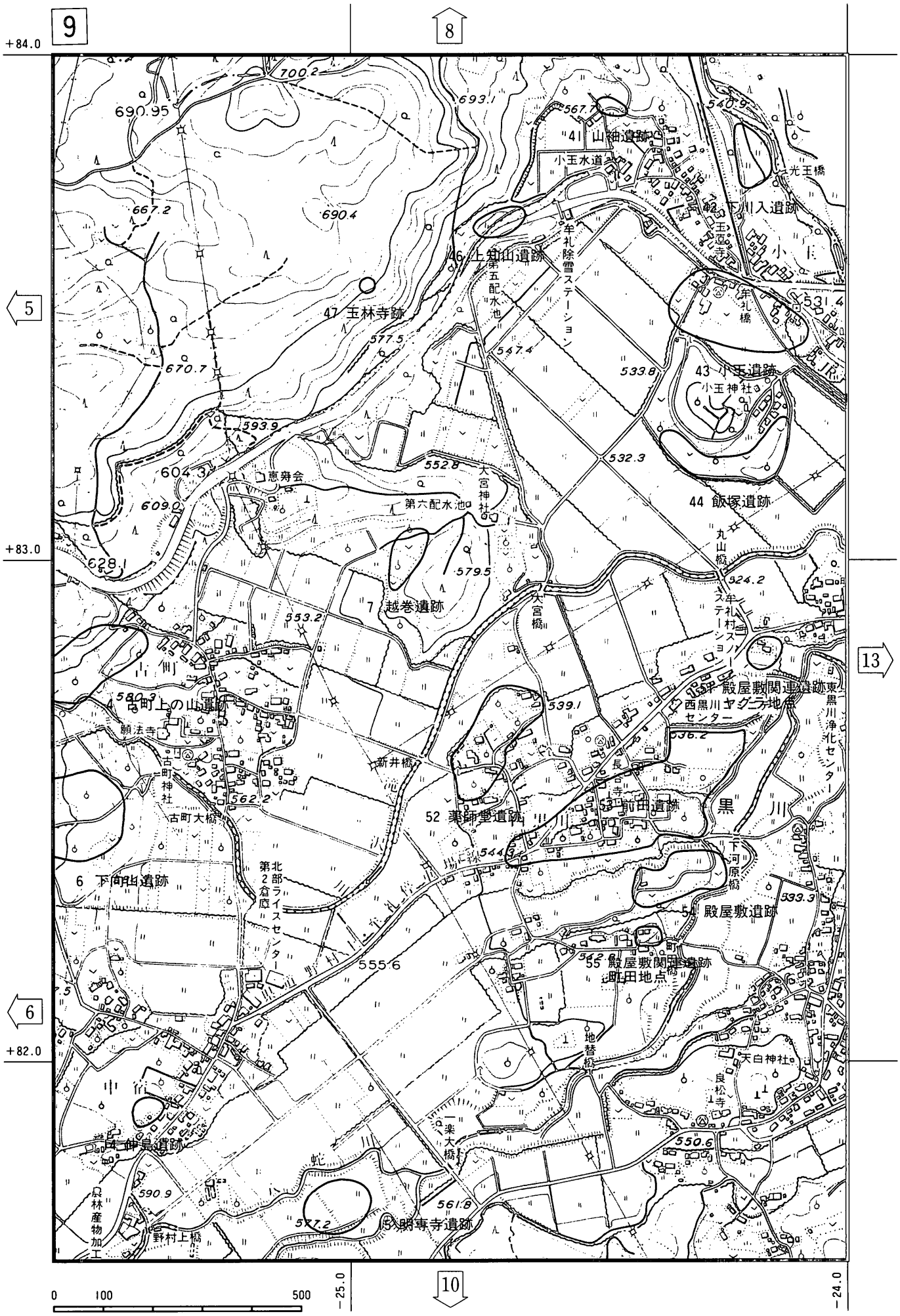

3
4
7
飯網サニーアイランド
つつじヶ原保健休養地
テニスコート
逆谷地湿原及野市
980.9
981.9
947.6
942.8
942.0
938.3
980.9
911.9
966.7
+80.0
+79.0
+78.0
-28.0
0
100
500

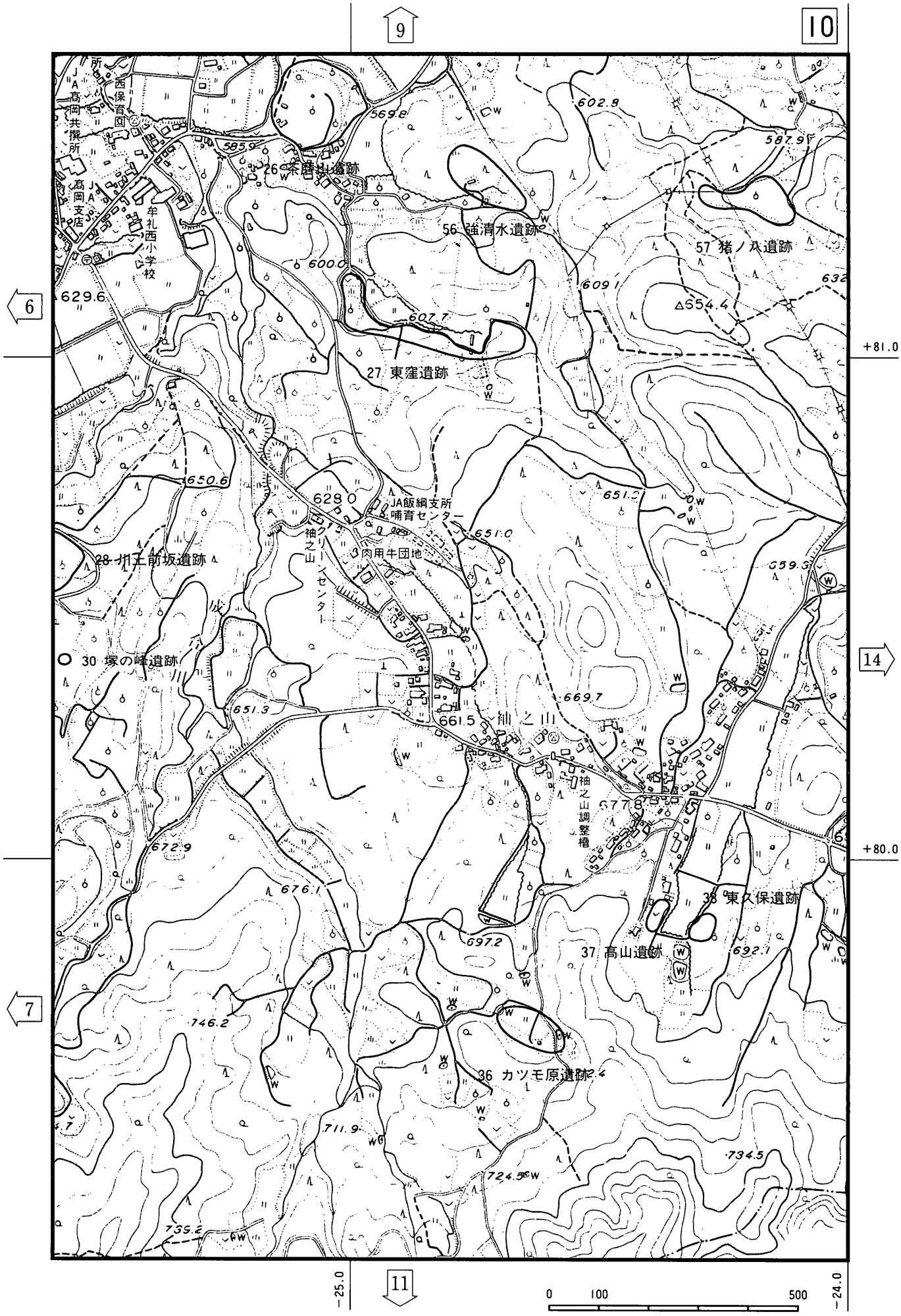

5
8
9
2
6
+85.0
+84.0
+83.0
−27.0
−26.0
0
100
500
678.0
685.3
707.5
723.2
666.65
清水久保遺跡
信州ゴルフ倶楽部
2 宮浦遺跡
芹沢
740.2
656.3
726.7
芹沢砂防ダム
692.2
781.4
758.4
643.1
第二配水池
712.2
上水道分水堰
708.7
747.3
3 西樽川遺跡
647.2
817.5
748.5

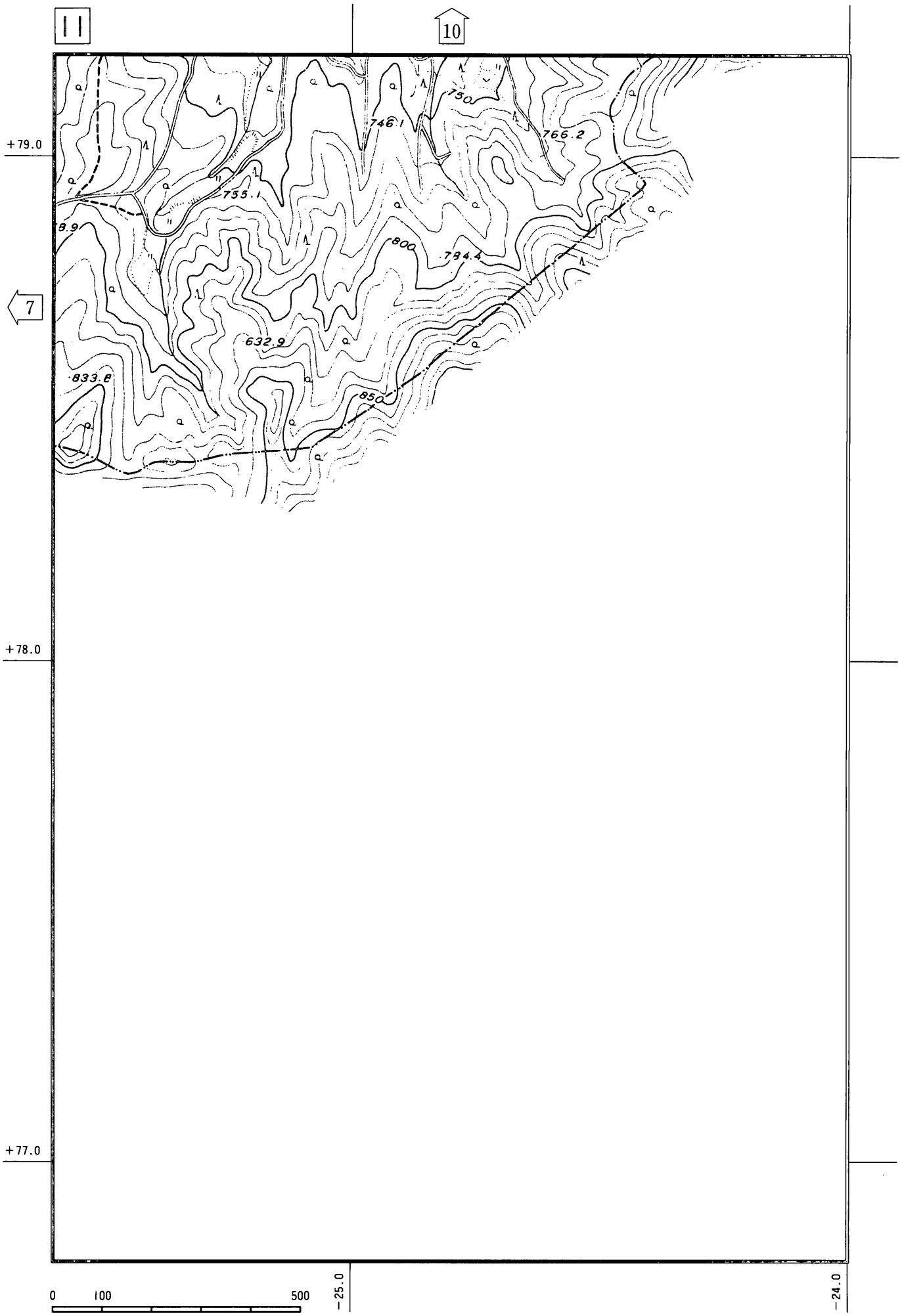

5
6
9
3
10
7
+82.0
+81.0
-27.0
-26.0
0
100
500
709
779.8
第一配水池
古町上の山遺跡
5 石原遺跡
692.7
6 本向山遺跡
827.2
横丁
8 蟹原遺跡
618.6
10 横丁屋敷遺跡
712.1
9 大岩遺跡
698.9
653.9
道上遺跡
762.2
農産物直売所
体験交流施設
629.9
12 南遺跡
678.6
694.5
柳里
13 横道遺跡
841.7
757.2
888.0
603.4
北川
20 北屋敷遺跡
630.0
767.3
800.1
686.3
22 築地屋敷遺跡
21 向遺跡
第三配水池
新築地橋
高岡神社
743.8
谷地遺跡
野村
川上
850
784.0
800
789.6
750
夏川屋敷遺跡
657.1
643.4
夏川橋
夏川
790.9
857.8
八蛇口遺跡
八蛇口橋
680.8
646.9
長野県倉庫
911.7
704.4
31 丸山遺跡
687.1
28 川上前坂遺跡

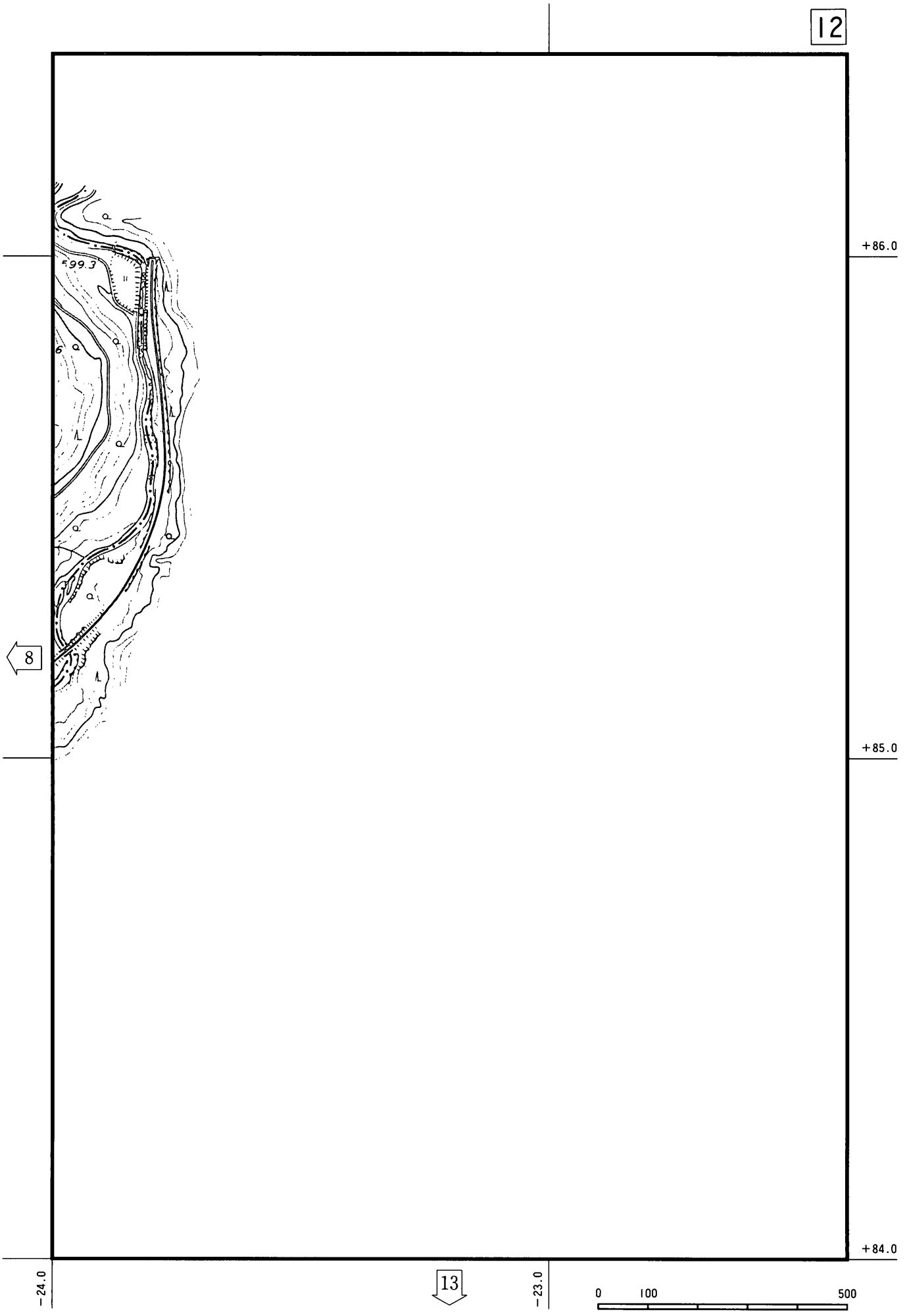

7
6
10
11
4
+80.0
+79.0
+78.0
-27.0
-26.0
0
100
500
坂神社
正定寺
坂作促進センター
730.8
796.7
744.3
732.7
773.9
西ノ入池
758.4
735.4
768.1
723.5
703.9
29 神田沢遺跡
699.4
坂口浄化センター
721.8
732.8
32 西原遺跡
長野プレイランド
第八配水池
808.1
799.7
上ノ谷地
832.0
735.7
34 上ノ向遺跡
858.1
752
33 横前遺跡
729
35 甘池遺跡
生活改善センター
747.8
860.9
774.1
823.8
763.8
822.6
あまいけ山荘
751.1
久保
地蔵
805.4
坂中地

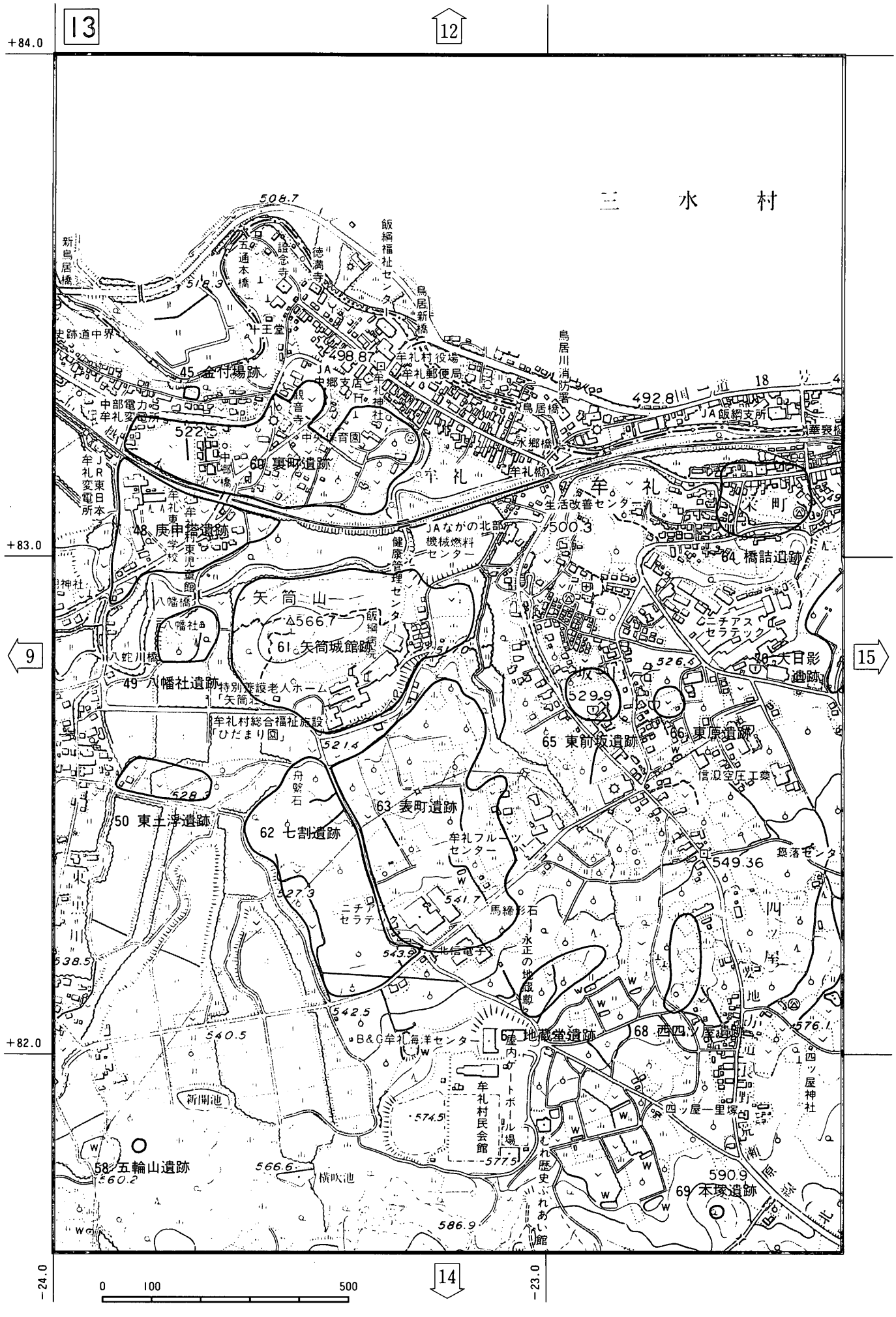

8
9
4
12
+86.0
+85.0
+84.0
−25.0
−24.0
0
100
500
660.9
650.7
677
660.3
713.7
691.7
669.6
674.5
681.5
671.0
657.4
695.1
649.3
680.6
北国街道
740.5
664
590.3
683.9
土取場
708.8
757.5
サテライト局
635.4
39 小五一里塚跡
545.8
700
650
718.7
626.1
600
40 中川大遺跡

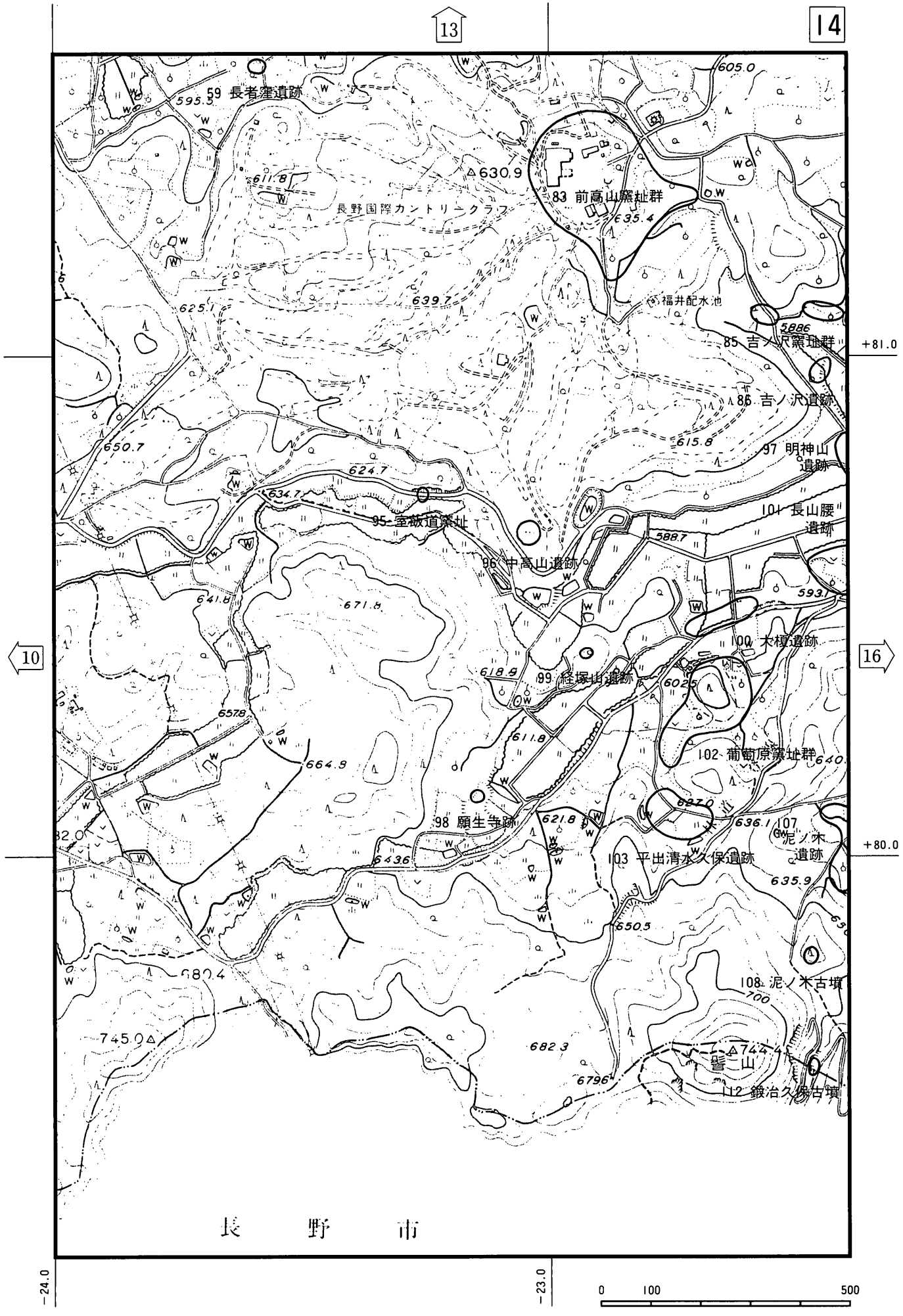

9
8
5
13
6
10
+84.0
+83.0
+82.0
−25.0
−24.0
0 100 500
700.2
690.95
693.1
567.7
540.9
667.2
690.4
41 山神遺跡
小玉水道
光玉橋
42 下川入遺跡
玉宝寺
46 上知山遺跡
牟礼除雪ステーション
第五配水池
牟礼橋
531.4
47 玉林寺跡
577.5
547.4
533.8
43 小玉遺跡
小玉神社
670.7
593.9
604.3
552.8
大宮神社
532.3
恵舜会
609.0
第六配水池
44 飯塚遺跡
628.1
579.5
丸山橋
524.2
7 越巻遺跡
553.2
大宮橋
牟礼村システムセンター
側
580.3
4 古町上の山遺跡
願法寺
539.1
55 殿屋敷関連遺跡
西黒川ヤグラ地点
東黒川浄化センター
536.2
新井橋
古町神社
562.2
長寺
53 前田遺跡
52 薬師堂遺跡
黒川
544.9
古町大橋
下河原橋
6 下間出遺跡
北部2倉庫
ライスセンター
333.3
54 殿屋敷遺跡
555.6
542.8
55 殿屋敷関連遺跡
町田地点
町橋
地替橋
天白神社
良松寺
一楽大橋
550.6
4 神皇遺跡
590.9
561.8
577.2
5 明専寺遺跡
野村上橋
農林産物加工

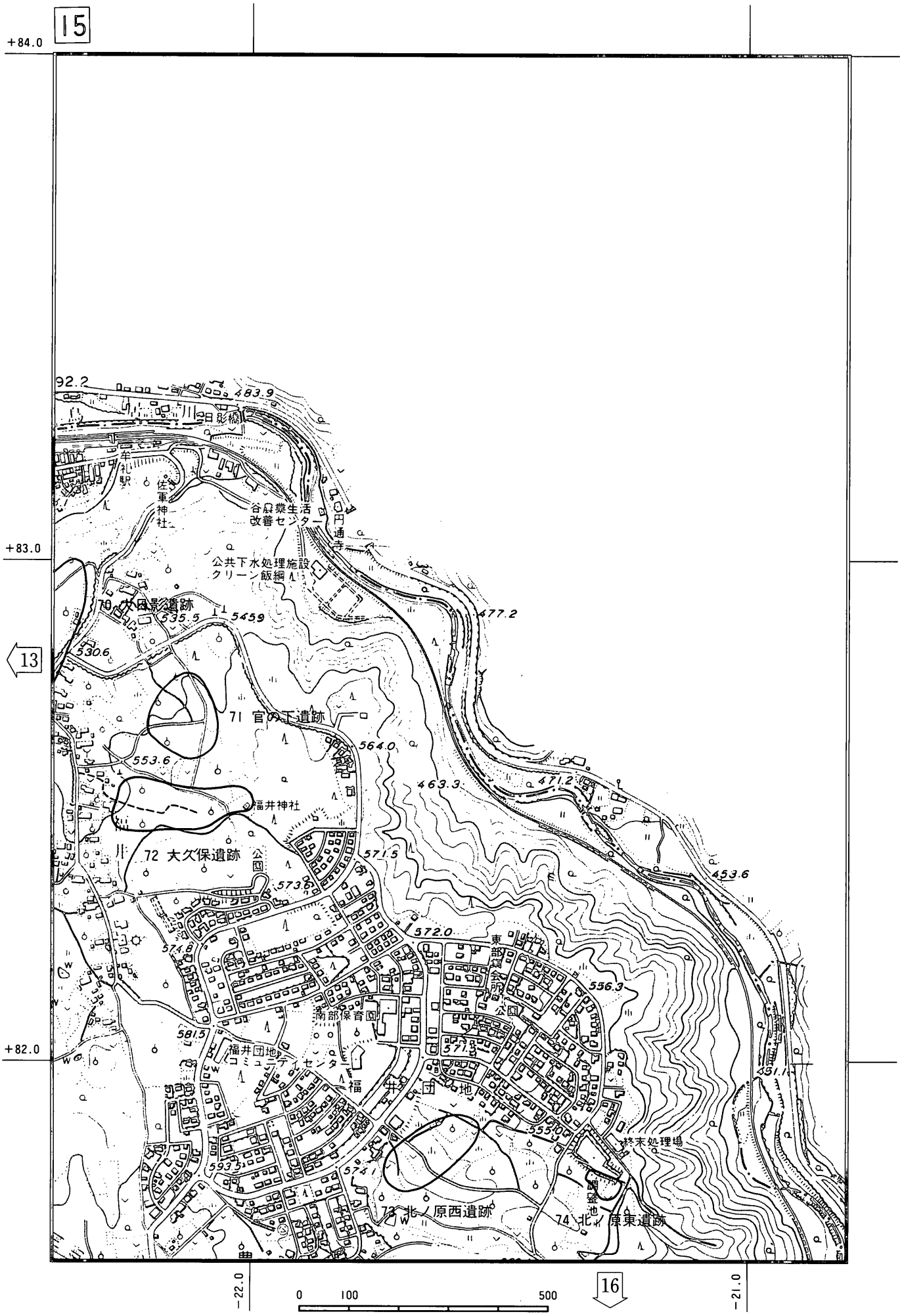

9
10
6
7
11
14
+81.0
+80.0
-25.0
-24.0
0 100 500
JA高岡共撰所
西保育園
高岡JA支店
牟礼西小学校
26 茶磨山遺跡
56 強清水遺跡
57 猪ノ八遺跡
27 東窪遺跡
JA飯綱支所
哺育センター
肉用牛団地
クリーンセンター
袖之山
28 川上前坂遺跡
30 塚の峰遺跡
袖之山調整槽
38 東久保遺跡
37 高山遺跡
36 カツモ原遺跡
629.6
585.9
569.8
602.8
587.9
600.0
609.1
607.7
554.4
650.6
628.0
651.0
659.3
651.3
661.5
669.7
677.8
672.9
676.1
697.2
692.1
746.2
711.9
724.5
734.5
739.2

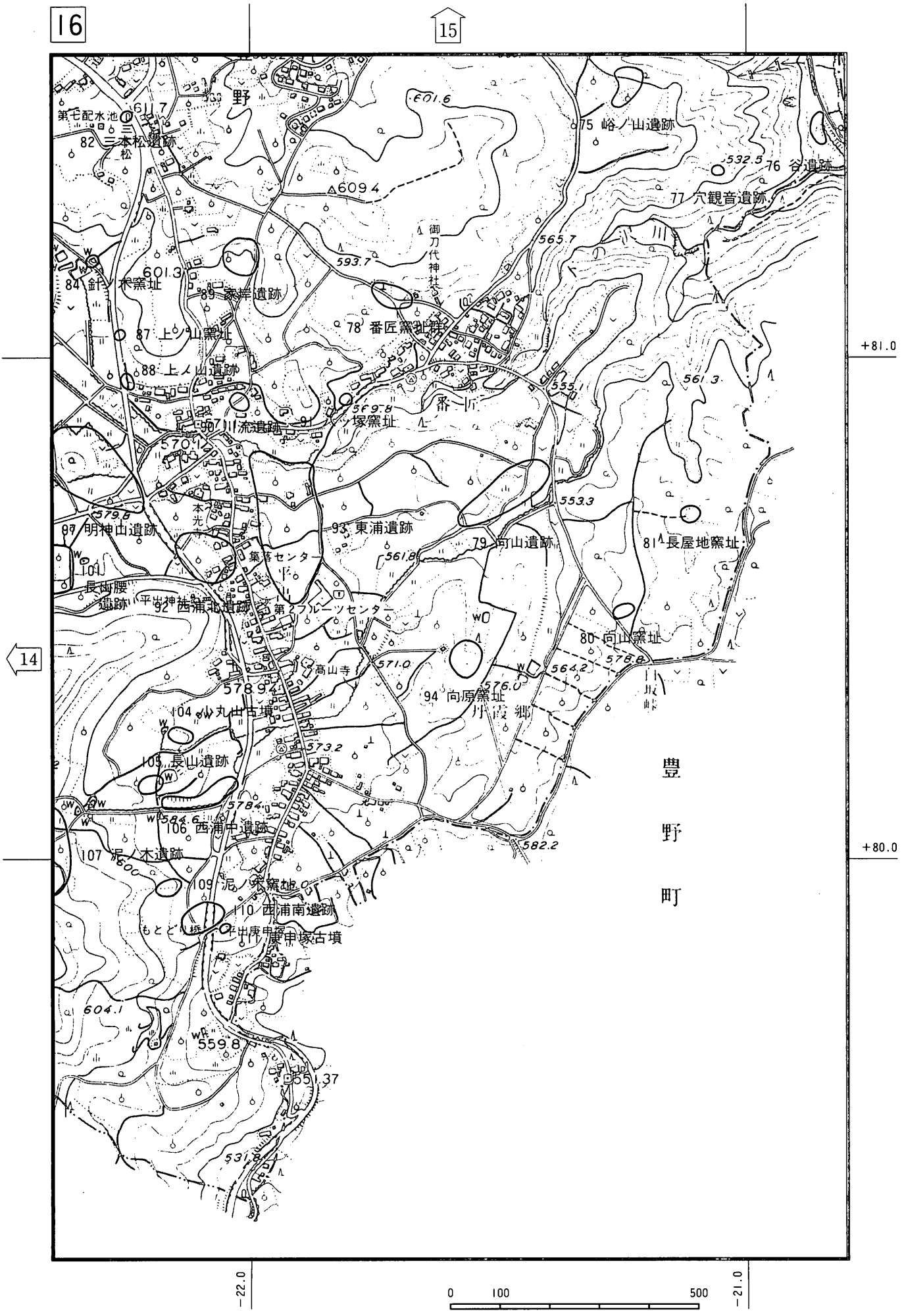

11
10
7
+79.0
+78.0
+77.0
-25.0
-24.0
0
100
500
750
746.1
766.2
755.1
9.9
800
784.4
632.9
833.8
850


12
+86.0
+85.0
+84.0
8
13
-24.0
-23.0
0
100
500


13
12
14
9
15
+84.0
+83.0
+82.0
-24.0
-23.0
三　水　村
牟　礼
牟　礼　町
45 金付場跡
60 裏町遺跡
48 庚申塔遺跡
49 八幡社遺跡
61 矢筒城館跡
矢　筒　山
50 東土浮遺跡
62 七割遺跡
63 表町遺跡
64 橋詰遺跡
65 東前坂遺跡
66 東原遺跡
67 地蔵堂遺跡
68 西四ッ屋遺跡
69 本塚遺跡
58 五輪山遺跡
牟礼村役場
牟礼郵便局
JA飯網支所
JAながの北部機械燃料センター
生活改善センター
牟礼村総合福祉施設「ひだまり園」
特別養護老人ホーム「矢筒荘」
牟礼村民会館
牟礼フルーツセンター
B&G牟礼海洋センター
牟礼村民会館
むれ歴史ふれあい館
新開池
横吹池
0　100　500


13
14
10
16
59 長者窪遺跡
595.3
605.0
△630.9
611.8
83 前高山窯址群
635.4
長野国際カントリークラブ
639.7
625.1
福井配水池
5886
85 吉ノ沢窯址群
+81.0
86 吉ノ沢遺跡
650.7
615.8
97 明神山遺跡
624.7
634.7
95 室敬道窯址
101 長山腰遺跡
588.7
96 中高山遺跡
641.8
671.8
593.1
100 大榎遺跡
618.9
99 経塚山遺跡
602.5
657.8
611.8
102 葡萄原窯址群
640
664.8
627.0
98 願生寺跡
621.8
636.1
107 泥ノ木遺跡
+80.0
643.6
103 平出清水久保遺跡
635.9
650.5
680.4
108 泥ノ木古墳
700
745.0△
682.3
△744.4
磐山
679.6
112 鍛冶久保古墳
長　野　市
−24.0
−23.0
0
100
500


15
+84.0
+83.0
+82.0
13
16
-22.0
-21.0
0 100 500
92.2
483.9
日影橋
牟礼駅
佐軍神社
谷尻農生活改善センター
円通寺
公共下水処理施設
クリーン飯綱
70 大日影遺跡
535.5
545.9
530.6
477.2
71 官の下遺跡
564.0
553.6
463.3
471.2
福井神社
72 大久保遺跡
公園
571.5
573.0
453.6
572.0
574.8
東部公園
556.3
南部保育園
581.5
福井団地コミュニティセンター
571.8
福井団地
555.0
593.5
574.1
終末処理場
調整池
73 北ノ原西遺跡
74 北ノ原東遺跡


16
15
14
第七配水池
三本松
82 三本松遺跡
611.7
601.6
75 峪ノ山遺跡
532.5
76 谷遺跡
77 穴観音遺跡
609.4
御刀代神社
565.7
593.7
601.3
84 針ノ木窯址
89 家崎遺跡
78 番匠窯址群
87 上ノ山窯址
88 上ノ山遺跡
+81.0
561.3
555.1
569.8
番匠
90 川流遺跡
91 八ツ塚窯址
570.1
本光寺
553.3
579.8
97 明神山遺跡
93 東浦遺跡
79 向山遺跡
81 長屋地窯址
561.8
集落センター
101
長尚腰遺跡
平出神社
92 西浦北遺跡
第2フルーツセンター
80 向山窯址
578.8
564.2
571.0
高山寺
576.0
578.9
94 向原窯址
104 丸山古墳
坂峠
573.2
105 長山遺跡
豊野町
578.4
594.6
106 西浦中遺跡
582.2
+80.0
107 泥ノ木遺跡
600
109 泥ノ木窯址
110 西浦南遺跡
もとど
平出庚申塚
111 庚申塚古墳
604.1
559.8
551.37
531.8
−22.0
−21.0
0
100
500

第３章　遺跡一覧表

１．遺跡一覧表

遺跡番号	地図番号	遺跡名	種別	所在地	立地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	近代	備考
1	5	清水久保遺跡	散	古町字清水久保	山麓		○				○				押型文　土師器出土 平成７年調査
2	5	宮浦遺跡	散	〃 字宮浦	山林	○	○				○	○			縄文 平成７年調査　土坑列検出
3	5	西樽川遺跡	散	〃 字西樽川	山林	○	○							○	台形状ナイフ型石器　平成７年調査 縄文前期・後期
4	6－9	古町上の山遺跡	集	〃 字上の山	舌状台地						○	○		○	土師器　表採　もと上の山遺跡 住居址があったと思われる(長野県教委1971)
5	6	石原遺跡	散	〃 字石原	山裾		○								石鏃(長野県教委1971)
6	6－9	下向山遺跡	散	〃 字下向山	傾斜地		○	○		○	○		○	○	縄文前期土器　大規模
7	9	越巻遺跡	散	〃 字越巻	山裾							○			陶器　唐津(16Ｃ末～17Ｃ前半)
8	6	蟹原遺跡	散	柳里字蟹原	棚田		○								打製石斧・石鏃(長野県教委1971)
9	6	大岩遺跡	散	〃 字大岩	テラス状台地		○				○		○		打製石斧　石鏃(長野県教委1971) 小規模
10	6	横手屋敷添遺跡	散	〃 字屋敷添	平地						○	○			須恵器　土師器
11	6	道上遺跡	散	〃 字道上	平地						○		○	○	土師器多量　灰釉２点
12	6	南遺跡	散	〃 字南	平地		○								縄文の石鏃　打製石斧表採 (長野県教委1971)
13	6	横道遺跡	散	〃 字横道	傾斜地		○								縄文の石鏃表採 (長野県教委1971)
14	9	仲島遺跡	散	〃 字仲島	平地							○	○	○	珠洲１点 陶器(伊万里・唐津)
15	9	明専寺遺跡	集	柳里字明専寺	平地		○								昭和54年に調査 縄文後期の住居址と多量の土器・石器
16	2	霊仙寺遺跡	散	川上字霊仙寺山	山麓		○								出土遺物所在不明
17	3	霊仙寺一の鳥居跡	寺	〃	山麓							○	○		両部鳥居形式の礎石６個現存
18	1・3	だづま原遺跡	散	〃　〃	平地	○	○								旧石器から縄文の石器多数出土
19	1	つつじヶ原遺跡	散	〃　〃	山林		○								出土遺物所在不明
20	6	北屋敷遺跡	散	〃 字北屋敷	丘陵							○		○	土師器少量
21	6	向遺跡	散	〃 字向	山裾						○			○	土師器少量
22	6	築地屋敷遺跡	散	〃 字築地	平地		○				○	○	○		中世居館跡といわれている 縄文前期の土器、土師器(平安から中世)

遺跡番号	地図番号	遺跡名	種別	所在地	立地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	近代	備考
23	6	谷地遺跡	散	川上字谷地	平地							○			土師器少量
24	6	夏川屋敷添遺跡	散	〃 字屋敷添	山裾						○	○	○	○	土師器多量　内黒高台付坏など 平安の初期の土器出土　S字状口縁カメの台1点
25	6	八蛇口遺跡	散	〃 字八蛇口	平地		○				○		○		土師器多量　縄文・陶器も出土
26	10	茶磨山遺跡	散	〃 字茶磨山	丘陵		○				○				昭和54年に調査　縄文晩期 もとの茶臼山遺跡
27	10	東窪遺跡	散	〃 字東窪	平地						○		○		土師器少量
28	6・10	川上前坂遺跡	散	〃 字前坂	山裾						○				土師器少量
29	7	神田沢遺跡	散	〃 字神田沢	山裾						○	○			土師器多量　緑釉1点出土
30	10	塚の峰遺跡	塚	〃 字大窪	丘陵										径8mほどの円塚、かつて地元で掘ってみたが出土品はなかったという。時期不詳
31	6	丸山遺跡	散	高坂字丸山	小丘陵		○				○				昭和52年に調査、早期の尖底土器出土 縄文前期の住居址・土坑、平安の住居址
32	7	西原遺跡	散	〃 字西原	平地				○		○				土師器少量
33	7	横前遺跡	散	坂口字横前	山裾						○				土師器多量
34	7	上ノ向遺跡	散	〃 字上ノ向	山裾						○				土師器坏出土 規模は小さい
35	7	甘池遺跡	散	〃 字甘池	山麓		○	○			○				縄文後期土器・石器各種出土 弥生の太型蛤刃石斧出土
36	10	カツモ原遺跡	散	袖之山字カツモ原	山麓						○				土師器の坏など多量出土。今回の踏査では荒地が多くてわからない
37	10	高山遺跡	散	〃 字高山	山裾						○				土師器少量
38	10	東久保遺跡	散	〃 字東久保	平地		○		○		○				須恵器土師器採集 草創期の尖頭器が1点出土している
39	8	小玉一里塚跡	塚	小玉字一里塚	丘陵								○		近世末まで2基存在　明治時代に取りくずされる
40	8	中川入遺跡	散	小玉字中川入	段丘		○								今回踏査できなかった 縄文中期土器出土
41	9	山袖遺跡	散	〃 字山袖	山裾						○		○	○	平安・中世　少量ずつ
42	9	下川入遺跡	散	〃 字下川入	段丘						○			○	須恵器・土師器表採
43	9	小玉遺跡	散	小玉字西屋敷添、仲田、牛垣、立石	平地		○				○				西屋敷遺跡を含む 所在が不明だが土偶が出土
44	9	飯塚遺跡	散	〃 字飯塚	丘裾		○				○		○	○	小玉神社がある鷲羅山裾周囲
45	13	金付場跡	その他	〃 字裏町	平地								○		佐渡金山から輸送された金銀荷の付けかえ所と伝える
46	9	上知山遺跡	散	〃 字寺屋敷	山麓							○			大正3国道改修に伴い五輪・宝篋印塔ほか須恵器などが出土したという
47	9	玉林寺跡	寺	黒川字玉林寺	山腹							○			西黒川長谷寺の前身が大永2年まであったという平坦地あり

遺跡番号	地図番号	遺跡名	種別	所在地	立地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	近代	備考
48	13	庚申塔遺跡	散	黒川字庚申塔 牟礼字裏町	平地			○			○		○	○	旧牟礼東小学校建設時に箱清水土器が出土と伝えられている
49	13	八幡社遺跡	散	黒川字東土浮	小丘陵		○				○	○	○		社のある丘陵から縄文　その裾の平地から平安以降の遺物
50	13	東土浮遺跡	散	〃　〃	小丘陵						○	○		○	土師器と中世陶器　表採
51	9	殿屋敷関連遺跡 ヤグラ地点	城館	〃 字広瀬	段丘							○			八蛇川の段丘上の舌状台地 殿屋敷の出丸と伝える
52	9	薬師堂遺跡	散	〃 字返町 字薬師堂	平地						○	○	○	○	土師器・須恵器・陶器　多量に表採
53	9	前田遺跡	集	字北ノ台、字前田 字広瀬	平地		○	○			○	○	○	○	昭和55年に調査　9世紀前半の住居址4軒ほか検出
54	9	殿屋敷遺跡	散	〃 字殿屋敷	台地						○	○	○	○	矢筒城主の屋敷跡という伝承がある
55	9	殿屋敷関連遺跡 町田地点	城館	黒川字町田	段丘							○			沢をはさんで殿屋敷の南側に位置する屋敷地　北・東側は自然崖、西・南側に堀切の痕跡あり
56	10	強清水遺跡	散	〃 字強清水	山腹						○				土師器を表採　文献の記述からだと場所がはっきりしない
57	10	猪ノ八遺跡	散	黒川字猪ノ八	山腹						○				土師器　少量表採
58	13	五輪山遺跡	古墓	牟礼字五輪山	山腹							○			五輪塔・骨片が出土したという
59	14	長者窪遺跡	その他	〃 字長者窪	小丘陵										石積あり　屋敷跡といわれる
60	13	裏町遺跡	散	牟礼字裏町 小玉字裏町	平地	○	○				○	○	○	○	広範囲である　東方の上町地籍では縄文前期土器が出土
61	13	矢筒城館跡	城館	牟礼字城山	山					○	○	○			矢筒山裾を3次にわたり調査
62	13	七割遺跡	散	〃 字七割	平地		○				○	○	○	○	石ヒ・土師器・須恵器　珠洲焼など表採
63	13	表町遺跡	散	〃 字表町	平地		○				○	○	○	○	打製石斧・須恵器・陶器など各種表採
64	13	橋詰遺跡	散	〃 字橋詰	段丘		○	○	○	○	○				いままでの栄町遺跡を含む 縄文後期土器・石器・弥生土器表採
65	13	東前坂遺跡	散	〃 字東前坂	平地		○				○			○	縄文後期　磨製・打製石斧
66	13	東原遺跡	散	〃 字東原	平地						○	○	○		土師器多く表採 青磁表採
67	13	地蔵堂遺跡	散	〃 字地蔵堂	段丘							○	○		地蔵堂があった 陶器を少量表採(伊万里　唐津)
68	13	西四ッ屋遺跡	散	〃 字西四ッ屋	斜面							○	○		陶器　土師器を少量表採
69	13	本塚遺跡	塚	〃 字本塚	丘陵										直径9mの円塚　時期不詳　旗塚との説もある
70	13・15	大日影遺跡	散	豊野字大日影 字宮下	段丘		○				○		○		押型文の破片あり
71	15	宮の下遺跡	散	豊野字宮下	山麓		○	○							「長野県教委1971」によると縄文・弥生の大規模な遺跡
72	15	大久保遺跡	散	〃 字大久保	平地		○				○				「長野県教委1971」によると縄文土器(南大原)、磨製・打製石斧、石鏃出土

遺跡番号	地図番号	遺跡名	種別	所在地	立地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	近代	備考
73	15	北ノ原西遺跡（きたのはらにし）	散	豊野字北ノ原	平地			○	○		○				いままでの北ノ原遺跡
74	15	北ノ原東遺跡（きたのはらひがし）	散	〃 字 〃	平地						○				土師器・須恵器　少量表採
75	16	峪ノ山遺跡（がけのやま）	散	〃 字峪ノ山	山腹						○				須恵器多量表採
76	16	谷遺跡（たに）	散	〃 字谷	山麓						○				須恵器　少範囲な平地
77	16	穴観音遺跡（あなかんのん）	その他	〃 字谷	洞穴							○	○		五輪・宝篋印塔・板碑あり　テラス面に集石墓らしい地点あり
78	16	番匠窯址群（ばんじょう）	窯	〃 字番匠	山裾						○				3基確認
79	16	向山遺跡（むこうやま）	散	〃 字向山	丘斜面						○				須恵器・土師器　多量表採
80	16	向山窯址（むこうやま）	窯	〃 字向山	山裾						○				上水内郡誌によると2基の窯址と住居址がある　奈良時代になるかもしれない
81	16	長屋地窯址（ながやち）	窯	〃 字長屋地	山麓						○				今回の調査で融着した須恵器採集
82	16	三本松遺跡（さんぼんまつ）	塚	〃 字行人塚	塚								○		H2年調査　土壙墓検出 人骨2体検出
83	14	前高山窯址群（まえたかやま）	窯	平出字古山	山麓						○				国際カントリークラブ建設にともなう調査で6基確認　9世紀前半
84	16	針ノ木窯址（はりのき）	窯	〃 字針ノ木	山裾					○					もと針ノ木1号　8C後半の可能性あり
85	14	吉ノ沢窯址群（よしのさわ）	窯	平出字吉ノ沢	山裾						○		○		もと針ノ木2号を含む 4基あり
86	14	吉ノ沢遺跡（よしのさわ）	散	〃 字 〃	平地						○				小範囲に須恵器土師器を多く表採
87	16	上ノ山窯址（うえのやま）	窯	〃 字上ノ山	山麓						○				H3年に調査　2基確認 9世紀前半 報告書の上ノ山遺跡を改名
88	16	上ノ山遺跡（うえのやま）	窯	〃 字 〃	山裾		○				○				H3年に調査の東浦遺跡を西浦D遺跡と改名し、また今回上ノ山遺跡とした
89	16	家岸遺跡（やぎし）	窯 散	〃 字家岸	山林斜面						○				窯址1基H10年確認　のち分布調査で1基確認
90	16	川流遺跡（かわながれ）	散	〃 字川流	平地						○				小範囲の畑で土師器・須恵器を表採
91	16	八ッ塚窯址（やつづか）	窯	〃 字八ッ塚	山裾						○				いままでの川流窯址　「長野県教委1971」では番匠窯址　所在地は違っていたようで、改名した
92	16	西浦北遺跡（にしうらきた）	散	〃 字西浦	平地	○	○				○				いままでの西浦A・B、平出北を含む
93	16	東浦遺跡（ひがしうら）	散	〃 字東浦	平地		○				○				いままでの東浦A・Bを含む
94	16	向原窯址（むこうはら）	窯	〃 字向原	小丘陵						○				所有者が山林開墾の際に多数の須恵器を確認
95	14	室飯道窯址（むろいみち）	窯	〃 字室飯道	山裾						○				ゴルフ場周回道路に1基
96	14	中高山遺跡（なかたかやま）	散			○									石刃・石核が出土しているが出土地点がはっきりしない

遺跡番号	地図番号	遺跡名	種別	所在地	立地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	近代	備考
97	14・16	明神山遺跡（みょうじんやま）	窯 散	平出字明神山 〃字長山腰	丘陵						○		○		明神山裾の東側で多量の須恵器・土師器表採　土師器のほうが多い 山頂に神社跡あり
98	14	願生寺跡（がんしょうじあと）	寺	〃字上平出	山麓							○			五輪塔出土　応仁～永禄のころ願生寺があったと伝える
99	14	経塚山遺跡（きょうづかやま）	塚	平出字中ウネ	山腹										一字一石経が採集される　時期不詳
100	14	大榎遺跡（おおえのき）	散	〃字大榎	平地						○				多数の須恵器を表採
101	14	長山腰遺跡（ながやまこし）	散	〃字長山腰	平地						○	○	○		須恵器・珠洲焼・陶器　表採
102	14	葡萄原窯址群（ぶどうはら）	窯	〃字葡萄原	丘陵	○					○				いままでの葡萄原遺跡を含む
103	14	平出清水久保遺跡（ひらいでしみずくぼ）	散	〃字清水久保	平地						○				須恵器多数　表採 土師・内黒坏も表採
104	16	小丸山古墳（こまるやま）	古	〃字西浦	平地				○						平地のなかの小丘陵　形状は変貌 H10年断面調査　人工的盛土はあるも判定しがたい
105	16	長山遺跡（ながやま）	散	〃字長山	山麓裾		○	○							いままでの平出南を含む　青野神社(旧村社)跡あり
106	16	西浦中遺跡（にしうらなか）	散	〃字西浦	平地		○				○		○		いままでの西浦Cを含む
107	14・16	泥ノ木遺跡（どろのき）	散	〃字泥ノ木	山麓						○		○		須恵器・灰釉表採
108	14	泥ノ木古墳（どろのき）	古	〃字泥ノ木	山麓				○						直径15～16mの円墳　積石塚のように見える
109	16	泥ノ木窯址（どろのき）	窯	〃字泥ノ木	山麓						○				はっきりした位置は不明　土地所有者が融着した甕採集
110	16	西浦南遺跡（にしうらみなみ）	散	〃字西浦 字泥ノ木	平地						○				須恵器・土師器少量表採
111	16	庚申塚古墳（こうしんづか）	古	〃字西浦	丘陵				○						村指定史跡　前方後円墳　H5年一部調査　格子目叩きをもつ埴輪出土
112	14	鍛冶久保古墳（かじくぼ）	古	〃字鍛冶久保	山麓				○						昭和35年、髻山麓の採石工事で破壊 鋳造斧状鉄器など出土　5世紀後半

種別は　散－遺物散布地、集－集落跡、寺－寺社跡、塚－経塚等、城館－城館跡、窯－窯跡、古－古墳、墓－古墓、その他－その他の遺跡　を示す。

2　参考文献

1 『高岡村のあゆみ』 1955

2 『中郷村史』 1960

3 『長野県牟礼村誌』 上（自然・原始・古代・中世・近世） 1997

4 『長野県上水内郡誌』 （歴史篇） 1976

5 『信濃史料』（第一巻上下考古資料篇） 1956

6 『長野県史』 考古資料編 1956

7 『牟礼村丸山遺跡発掘報告書』 1978

8 『明専寺・茶臼山遺跡』 1980

9 『前田遺跡　長野県牟礼村緊急発掘調査報告書』 1981

10 『矢筒城館跡　長野県牟礼村矢筒城館跡遺跡発掘調査報告書』 1981

11 『矢筒城館跡　長野県牟礼村矢筒城（空堀）遺跡発掘調査報告書』 1988

12 『平出遺跡群発掘調査報告書』 県道長野・荒瀬原線バイパス工事に伴う発掘調査 1992

13 『庚申塚古墳発掘調査報告書』 村道改修工事に伴う前方後円墳の北裾部発掘調査 1994

14 『家岸遺跡』 農村総合整備モデル事業農道65号線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―古窯址調査― 1998

15 『農業振興等開発地域埋蔵文化財緊急分布調査報告書』 ―昭和45年度― 1971
註・遺跡一覧表では（長野県教委1971）と記す。

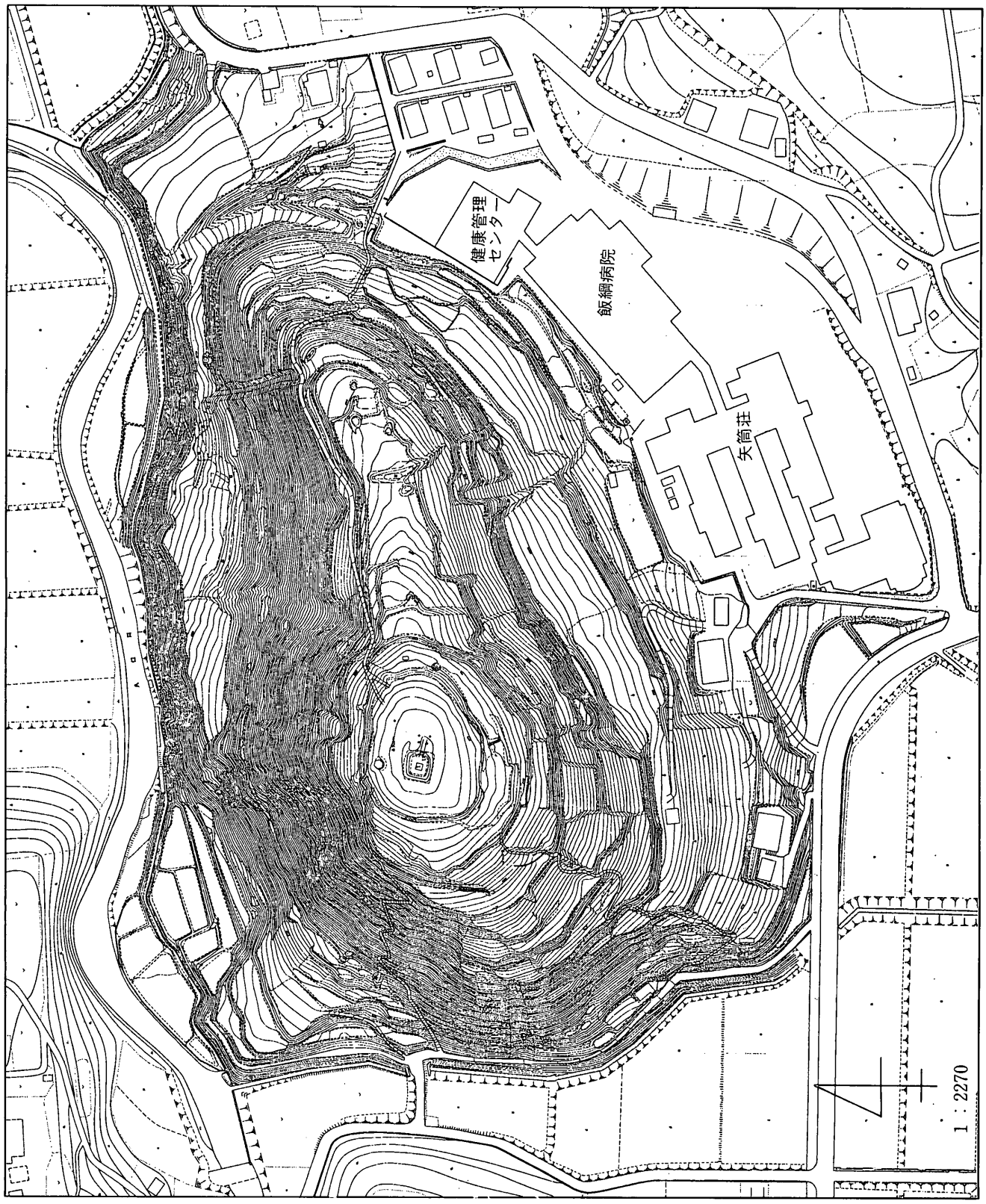
16 『上水内郡及長野市史料写真帖』 信濃教育会上水内部会 1922

17 「上水内郡牟礼村中高山出土の石器」『長野県考古学会誌22号』

18 『中郷村出土品に就いての小考察』 老猿（清水勝治） 1953

第４章　遺跡試掘確認調査

本調査は踏査による調査のほか、矢筒城館跡とした矢筒山の縄張図作成及び地形測量、試掘調査を実施した。矢筒山の詳細な地形がわかる図が村には無いため、不便なことが多く、また公共施設の建設などで従来の地形が変化してきているため、現在の地形を把握する目的で測量を行った。これにより、地形図と縄張図を考慮しながらの矢筒城館跡の保存管理、活用が可能になる。



1．矢筒山地形図

2．矢筒城縄張図

作図：三島正之（1997. 12. 13, 1998. 3. 20, 4・7 調査）

3。矢筒城の縄張

(1) 占地状態

矢筒城は、牟礼盆地の中心部に位置する独立丘、標高566.7mの矢筒山上に構築されている。矢筒山の北下には東流して、鳥居川にそそぐ八蛇川（滝沢川）が流れ、西下には黒川の水田が広がる、この北側と西側の山の傾斜は急峻で、比高差も50～60mと大きい。それに比べ東側と南側は、山の傾斜は緩やかで比高差も10m前後縮まり、特に南側は髻山方面からくだってきた台地と接続している。

矢筒城は、このような地形上に占地した関係で、その縄張は、西北側を要害として利用し、地形的に不利な東南側に防御の力点を集中する形となっている。

矢筒城の縄張は、東西約300mの楕円形をした矢筒山山上部と、南方の台地続きに接した、現在飯綱病院の建つ平坦地、及びその東に広がる平坦地に大別される。山上部と平坦部との比高差が少なく、この平坦部をも城域に取り込む縄張から、この城の占地形態は近世城郭の分類法でよく用いられる、いわゆる平山城の形状を呈しているといえる。

矢筒城の調査で留意しなければならない事項として、この城の占地の状態が上記のようであるため、城の廃城直後から現在に至るまでに、城の遺構に改変、破壊の手が加えられていることであろう。これは、廃城直後の破却や、近世以降の耕地化、近年の病院建設による破壊など、その種類はさまざまである。これらによって、矢筒城の存立当時の縄張を知ることは、かなり困難な状況になっている。しかし、現況の遺構を詳細に分析することと、病院建設に際しておこなわれた発掘の成果を検討することによって、往時の縄張を想像することはある程度可能である。

(2) 山上部の縄張

標高566.7mの最高所に位置するこの城の主郭の曲輪1は、矢筒山の西端に片寄っており、そこから東方にのびる尾根上に、複数の曲輪が配置されている。矢筒山の北側を除く三方は、緩斜面であるためそこを堅固にする目的で、西・南・東の斜面には腰曲輪や小削平地が無数に設けられている。

現在、平和観音の置かれるこの城の主郭の曲輪1は、東西約50m、南北約35mの規模をもつ六角形の曲輪である。近世以降の耕地化やその後の公園整備により、曲輪1を含めた山上の曲輪は著しく改変を受けた形跡があり、曲輪1も虎口の位置や形状、周囲をめぐる土塁の有無など、旧状を窺い知ることは困難である。虎口として想定できるのは、東方から登ってきた登山路に開く、東北隅のaしか見当たらない。

曲輪1の周囲を玉葱の皮のように取り巻く腰曲輪と、その西側斜面に築かれた数段の腰曲輪は、いずれも天端ラインがあいまいで、曲輪内も傾斜していたりして、耕地化による改変の形跡が認められる。また、曲輪1南下の小削平地も含めて、どこまでが城の曲輪であり、どこまでが耕地化に伴って増設された段かという問題も、判断がむずかしい。しかし、仔細にそれらを観察すると、細く細分化された段や、スロープ状に押し広げられた段はともかく、大部分は当時の遺構と見てさしつかえないと思われる。

曲輪1の東側には、東西約150m、南北約50mの規模で、面積の広い尾根が東方に向けて張り出している。この尾根上には、曲輪2・3などの面積の広い曲輪が同じレベル上に配置されているが、通常このような曲輪配置の場合は、曲輪間を堀切で仕切るはずだが、その痕跡はない。しかし、曲輪2の西上の腰曲輪の南下には、堀状の食い込みがみられ、さらにその下には竪堀ヘが続くので、曲輪2の西上の腰曲輪は、当時空堀であった可能性がある。また、曲輪2・3間の南下には竪堀ホが、北下には竪堀トが存在するので、それら

を延長すれば曲輪２・３間を仕切る堀を想定できる。ただし、ここで厄介なのは、曲輪２・３間には現在、凸字状の土塁が向き合って存在するので、堀で完全に仕切るのはむずかしい。耕地化される前はどのようになっていたのか知る由もないが、土塁の出っ張り同士の間が開口しているので、この部分が南下から登ってきたルートの虎口に相当していた可能性もある。

曲輪２・３は耕地化による改変で、かなり変貌してしまったようで、その上には現在、意味不明の土塁状の高まりがいくつかある。それらの内のいくつかをつなぐと、曲輪２'や曲輪３'が曲輪２・３から区画される形になる。曲輪３'の東南下を取り巻く腰曲輪の東端には土塁の残欠が見られることから、この腰曲輪は空堀であった可能性が高い。

曲輪３の東南下の斜面上にも、複数の削平地が見られる。その最下段の曲輪４は、矢筒山の東麓から南麓の半分をカバーする長大な腰曲輪で、竪堀ホを挟んだ曲輪５とともに、東南下の平坦部方面から、山上部をしっかりガードしている。

(3) 山上部と平坦部を隔てる横堀（内堀）

矢筒城の縄張を際立たせる、大変重要な遺構として特筆されるのが、曲輪４の東下と南下に設けられた横堀イとロの遺構であろう。この横堀は、山上部と東南下の平坦部を隔絶させる目的で、曲輪４・５の真下に構築された横堀で、矢筒山の東南面を約300ｍにわたって掘られていた。しかし、残念ながら、病院建設によってこの横掘の内、東南角と曲輪５直下の部分が削り取られ消滅し、現在はイとロの部分を残すのみになってしまった。

1986年に健康管理センター建設に伴う発掘調査が実施され、東南角の横掘に二カ所トレンチが開けられた。それによると、この横堀は地山を掘削して、その残土を外側（平坦部側）に積んで土塁とし、堀の深さを倍加させる方式でつくられている。その規模は、二カ所のトレンチの平均で、上幅約10.5ｍ、底幅約2.6ｍ、深さ3.75ｍとなる。発掘前、この堀は埋め立てられて、畑になっていたようだが、注目されるのは、畑の埋土の下層から、山上部より一度にほうり込まれたとみられる埋土層が検出されたことである。報告書によるとこの埋土は、大きな石や炭化物や中世の遺物が含まれているので、この城の破却の際に堀を埋めるために投入されたものではないかとしている。これはこの城に破却がおこなわれた重要な証拠となろう。

発掘区域の北側に、登山路が通る土橋が残っており、それを渡って曲輪４に入ると虎口ｂがある。このあたりも、耕地化で改変されておりこれが本当に虎口なのかどうか、判断がむずかしいところだが横矢の掛かる形状から、虎口とみてもいいだろう。

登山道の土橋より北にのびる横堀イは、残存状態がよく規模も壮大で、北に向かって竪堀状に傾斜し、矢筒山の東北隅に達して終わる。縁の土塁は途中で消えるが、堀自体本来は八蛇川に面する崖端まで達していたと思われ、その末端が斜面に食い込んでいる。

横堀イの末端から西に向かって腰曲輪が約70ｍ続いており、曲輪３'方面からおりてきた竪堀チと交差する。竪堀チの上端は登山道を越えて堀切ニとつながっていた可能性があり、そうなるとニ・チは矢筒山の東端を南北に縦断する大きな遮断線ということになる。

竪堀チを越えた西には、曲輪８が東西２段に分かれ、約120ｍの範囲で存在する。曲輪８は本来城の曲輪として築かれたものか、畑の段としてつくられたものか判断しづらい。もし城の遺構と仮定すれば、八蛇川の流路を監視する目的で設けられたものだろう。

(4) 平坦部の縄張

次に平坦部に目を向けてみよう。平坦部は今まで述べてきたように、矢筒山南麓の飯綱病院の建つ曲輪6と東麓の曲輪7からなっている。曲輪6の方が曲輪7よりも約10m高く、双方とも矢筒山とは前述の横堀イ・ロ（以後内堀と呼ぶ）によって隔てられている。南側の台地続きとは、自然の谷を利用してつくられた空堀ハ（以後外堀と呼ぶ）によって、大きく隔てられる。

曲輪6は現在、西に特別養護老人ホーム「矢筒荘」、中央に飯綱病院本館、東に健康管理センターが建てられており、建物以外の部分も駐車場などになり平坦にされている。しかし、これらが建設される以前の曲輪6は、畑として利用されていたが、西から東と南に向けて三段くらいの段差がつけられていたようである。

病院が建設される1979年9月に、曲輪6の病院本館建設予定地の中央部に対し、発掘がおこなわれた。この時の発掘報告書によると、この部分には、低い土壁と石垣に囲まれた70～80m四方の区画が存在したらしいようだ。もし、それが確実に城の遺構であるならば、曲輪6の性格を考える上で重要な遺構である。つまり、この区画は曲輪6内が、機能的なものによるか、階層的なものによるものかは別として、分化されていたことを物語っているからだ。

また、石垣についても、矢筒城は、主郭の曲輪1の壁に石垣の残存が確認され、そのほかにも崩落した石垣のものとみられる転石があるので、曲輪6の区画の石垣が城の遺構である可能性は低くはなさそうである。

曲輪6は城内における位置関係から、この城の居館群が置かれるにふさわしい曲輪と考えていいだろう。

曲輪7は、曲輪6の東下に約140m四方の規模広で広がる曲輪で、現在畑や宅地となっている。土塁等の遺構がないので、この曲輪は一見城外のようにもみえる。しかし、東は深い沢、北は八蛇川の低湿地に囲まれ、南は埋められてはいるが、空堀ハにより仕切られているので、城内とみてよさそうだ。

(5) 平坦部と南方台地続きを隔てる空堀（外堀）

曲輪6・7と南方の台地続きを大きく隔てる空堀ハは、自然の侵食谷を利用して築かれたため、その規模は壮大である。現在堀底は舗装道路、水田、畑、宅地等に利用され、旧状が損なわれているが、その規模は、狭い所でも幅が50m近くもあるし、浅い所でも深さが6m近くもある。当時はもっと深かったと思われるので、この空堀は南方に対するかなり強力な遮断線を形成していたのだろう。空堀ハは、山上部と平坦部を隔てる横堀イ・ロを内堀と呼ぶならば、その位置から外堀と呼ぶにふさわしい。

空堀ハの東端は、前述の曲輪7の東の沢に達し、西は黒川の低湿地に向けて開口する。この黒川に面する開口部の北側の低湿地一帯を「三日月堀」と地元で呼んでいる。「三日月堀」とは、武田氏が縄張した城によくみられる虎口施設の「丸馬出」の外側の堀の一般的な呼称である。そうなると、この辺りに武田氏特有の「丸馬出」の存在が想起されるが現在この辺りは、道路や圃場整備などによって、旧状が損なわれており、それらの存在を窺わせる痕跡は見当たらない。この辺りは確かに、山上部と平坦部の境目に西から低地が湾入しており、平坦部から低湿地方面に降りる虎口があってもおかしくはない。しかし、現状からその存在を断定することは難しい。空堀ハは当時、西端の開口部から北に折れ、平坦部の曲輪6の西面を取り巻いた可能性があり、その場合その堀がこの辺りで弧状に湾曲していたものと思われる。あるいは、その堀のカーブした形状を後世に見た人が「三日月堀」と呼んだのかも知れない。

(6) 南方台地続き（城下集落）

空堀ハの南方の台地続きは、緩いスロープで髻山方面に続く、広大な扇状地状の地形になっている。現在この辺りは果樹園などに利用され、現状では城の遺構も確認できないので、城外と考えても差し支えないだろう。ただし、この台地上の一部の地籍は「表町」と呼ばれ、そのほかにも「七割」「地蔵堂」「五輪山」といった地名が残っているので、この辺りに城下集落が存在したことを暗示させる。この城下集落の規模や構造は不明でその存在を裏付ける史料も確認できない。

しかし、もしこの台地上に城下集落を想定すれば、矢筒城は山上部（詰の城）・平坦部（居館）南方台地（城下集落）と三点セットになり、戦国大名が地域支配をするための拠点城郭として、ふさわしいつくりとなる。また、当時牟礼村を通過していた北国街道とのアクセスを考えた場合、この位置に城下集落が置かれたと想定すると、大変都合がいい。

(7) 総　括

以上、矢筒城の縄張を眺めてきたが、その過程で分かってきたことを少しまとめてみよう。矢筒城は、湿地帯に浮かぶ独立丘を利用した、近世城郭の分類でいう平山城に属する形態をもった城である。遺構は、矢筒山を利用した山上部と、山下の平坦部に分かれる。

山上部の遺構は、堀切や空堀を多用せず腰曲輪などの削平地群を中心にした、いわゆる段郭の構造となる。石垣は一部にみられるが、土塁や虎口は後世の破壊はあるもののあまり明瞭でない。段郭の配置なども合理性がなく、全体的に古式な縄張のように感じられる。

平坦部は現在、病院などの建設によって旧状がわからない状態だが、この部分を挟む内堀と外堀は規模も大きく、その配置方法からも非常に斬新な遺構であるとの印象を受ける。

外堀の南側の台地続きに、城下集落が配置されていた可能性が高い。そして、この城下集落内と北国街道の関連も重視される。

歴史的には、国人領主島津氏の持城として機能していたこともあったのだろうが、この城は交通の要衝に立地しているので、上杉氏や武田氏によって利用されたことも想定される。特に戦国末期には、上杉景勝が北国街道の掌握と、牟礼盆地一帯の支配を遂行するために、矢筒城に整備の手を加えたことは容易に想像がつく。

そうなると、山上部の不合理な段郭遺構は島津氏による戦国中期以前にさかのぼる遺構で、斬新な内堀や外堀の遺構は、上杉景勝による戦国末期の改修によってできた遺構と考えたくなる。このような推定は、非常に説得力があるが、おそらく発掘調査における、出土遺物の年式判定を基軸に据えて考えると、大きなずれが生じるものと思われる。

4。表町遺跡試掘調査

1．調　査　地　牟礼村大字牟礼字表町

2．調査期日　平成11年2月22日～26日

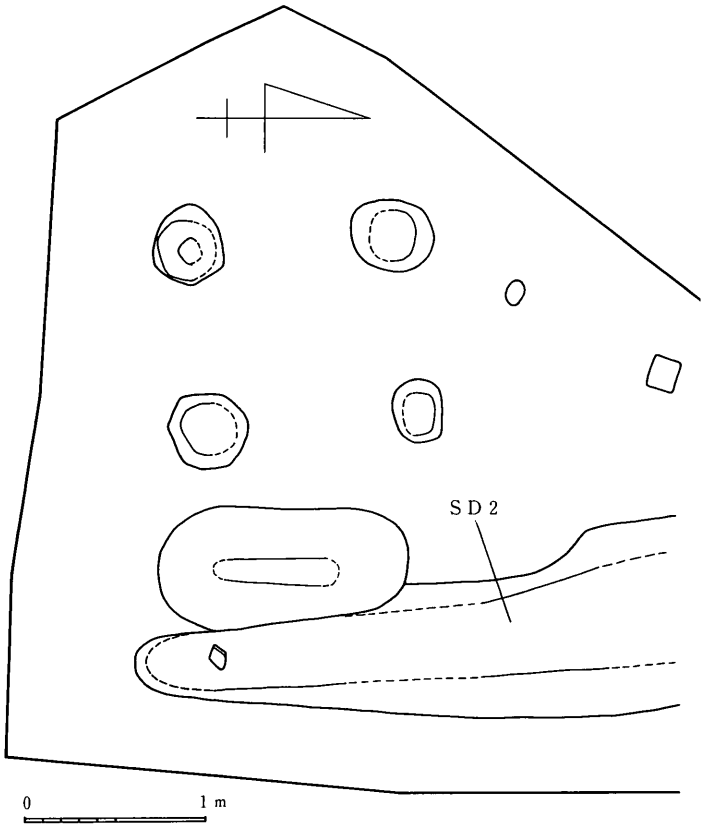
3．調査目的　調査地付近は以前より、表町遺跡のなかでも石器、須恵器、陶器などと多種類の遺物を表採している。遺跡の性格を知るための調査である。

4．調査方法　調査地に任意の試掘坑を設定した。

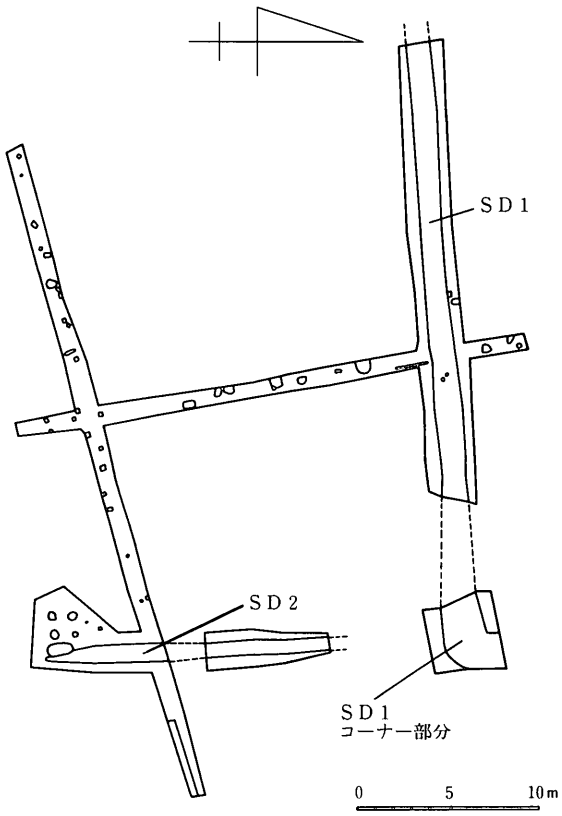
5．調査方法　以前から縄文時代の石斧、平安時代の須恵器、中近世の陶器などと様々な遺物が表面採集されているが、本調査では、遺物の出土はほとんどなかった。表土（耕作土）30cmの直下で中世の柱穴と考えられる土坑（小穴）が数多く検出された。その下層はすぐ地山となり浅い堆積だった。

調査地の北側と東側には館の領域を示すと考えられる溝状遺構が検出された。北側の溝（ＳＤ１）の規模は幅1.2ｍ、深さ70cm、東西方向に延びている一辺が34ｍあり、平坦な現地形を考えるとまだ延びる可能性はある。東側にはちょうどコーナー部分が検出でき、北方向へ延びている。東側にはもう１基溝（ＳＤ２）が検出されたが、南北に延びた一方向だけの検出で、深さも30cmとＳＤ１と比較すると浅い。ＳＤ２の終結部には覆土が漆黒色の堅く締まった土の土坑（穴）と、関連性がわからないが整然と並んだ柱穴（直径40cm、深さ60cm）が４個検出された。

現地形、地理、及び歴史資料などを考え合わせると、本調査地は小範囲であるが、遺跡全体では大規模な集落遺跡となる可能性がある。



ＳＤ２終結部分と柱穴



試掘坑全体図

5．築地屋敷遺跡試掘調査

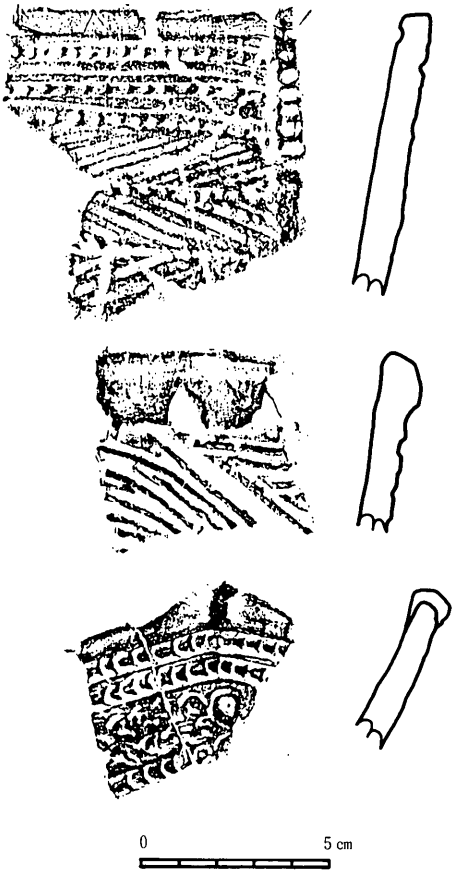
1．調　査　地　牟礼村大字川上字築地

2．調 査 期 日　平成11年３月９日～18日

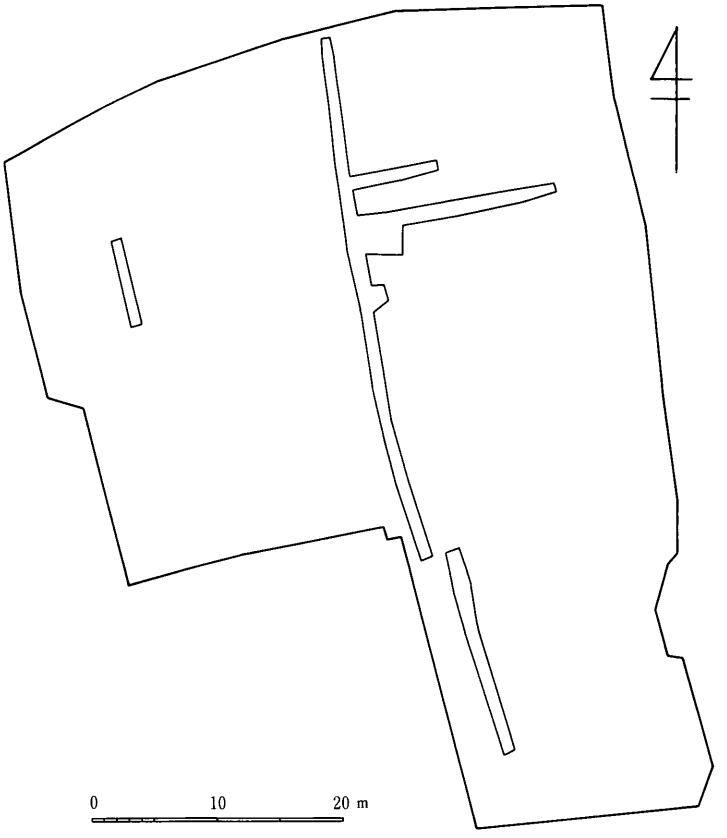
3．調査の目的　調査地は築地屋敷と呼ばれ、鎌倉時代以降室町時代前後まで、領主の館があったとの伝承がある場所である。実証を探り、遺跡の性格を知るための調査である。

4．調 査 方 法　地形、土地の状況を見、さらに館跡であったならという想定のもとに試掘坑を設定した。

5．調 査 結 果　基本の土層は表土30cm以下、中世の遺物包含層20cm、縄文前期遺物包含層60cmであり、検出された遺構は中世の土坑（小穴）と時期不明の円形の土坑、縄文の土坑（小穴）である。出土した遺物は縄文前期土器片、中世珠洲焼片、内耳鍋片　皇宗通宝などである。調査地は西から東へ傾斜していたが、土層を見ると平らに整地したことがわかった。土塁、堀など館に付随する施設は調査範囲からは検出できなかった。屋敷跡との言い伝えがあったせいか、土地の大きな改変がなく遺構の残りはよい。特に縄文の層はよく残っている。



縄文前期土器撮影



試掘坑配置図

6。小丸山古墳試掘調査

1．調　査　地　牟礼村大字平出字西浦

2．調 査 期 日　平成11年３月23・24日

3．調 査 目 的　調査地は以前から不確かながら古墳であるという説があり、状況を把握する。

4．調 査 方 法　調査地の南側が耕作上の土取りで削られており、断面観察ができるので、丘陵の端ではあるが長軸方向の観察をおこなった。

5．調 査 結 果　遺物は出土しなかったが、地主の原田利隆氏が頂上を浅く掘削したところ２～３cmほどの軽石が出てきた。断面観察では軽石層はなかったので頂上部分だけに検出できるものと思う。人為的盛り土層はあったが、はっきりした判断材料を検出することはできなかった。いずれにせよ丘陵の中心部分を試掘してみないと古墳かどうかは判断できない。

全長40m、高さは最も高い所で４ｍを計測した。

第５章　埋蔵文化財の保護と取り扱いについて

調査を終えてみると遺跡の数は112カ所ありました。現在わかっている牟礼の人々の生活の始まりは２万年も前のことです。まだ土の器を作ろうとしなかった時代、石を打ち欠いて使っていた時代です。その旧石器時代の人々の生活の証しである石器は、古町の宮浦遺跡、上村のだづま原遺跡、平出の葡萄原窯址群、牟礼神社の東側の裏町遺跡と、山間地ばかりでなく、村の真ん中でも見つかっています。そんな昔から脈々と現在まで私たちの暮らしは続いていますが、今回の調査ではだいたい200年から300年前の江戸時代ごろまでのものを含んでいます。あたりまえといえばあたりまえなのでしょうが、過去の調査で知られていた遺跡を踏査した時にたくさん土器を拾うことができて、「やっぱりここは遺跡だったんだ！」と妙に感激し、また当時の調査者の記録に感謝したものです。半面、何千年も前の石器や土器を個人個人では拾っておいても、情報が行き渡らず、知られぬままに改変されてしまった場所もたくさんありました。残念です。

いつの時代もその時に生きている人々の生活が最も大切で、何より優先して良いものかも知れません。そしていつの時代も人々は生活を便利に、より良くする事を考えて暮らしているはずです。そういった意味で現在もこれからも生活を豊かに便利にしてくれるいろいろな開発事業、道路整備などが必要不可欠ですが、それらによって先人の生活跡、先人のつくりあげた文化財が消えてしまう、壊れてしまうということにも目を向けなければなりません。現在の生活、文化は先人がつくりあげ、永永と引き継がれてきたものに基づいています。こういった貴重な財産を後世に伝えていくことは私たちの責務ではないでしょうか。また、歴史を知るためにたくさんの文献がありますが、地下に埋まっている埋蔵文化財はそれらを実証させ、目で見ることができ、正しく理解させてくれるものです。

村民みんなの共有財産である埋蔵文化財を大切に守り、また活用していきたいものです。

文化財を守るための法律に「文化財保護法」があります。その法律のなかで埋蔵文化財の取り扱いについていろいろ定められています。簡単には以下のようなことになります。

＊　遺跡内で土木工事、建設工事など開発行為をする時は届け出が必要になります。

＊　工事を計画する段階で教育委員会へまずご照会下さい。

＊　予定地が遺跡にかかるなら、保護協議を持ち、発掘調査が必要か、どのような保護策があるかなど、具体的な措置について検討します。

＊　発掘調査を実施する場合も届け出が必要です（届け出用紙は教育委員会にあります）。

＊　新しい遺跡を発見した場合も届け出が必要です（届け出用紙は教育委員会にあります）。

＊　出土した遺物は遺失物法の適用をうけ、埋蔵文化財拾得届、埋蔵文化財保管証を警察署に提出します。

本調査では山林、荒れ地、果樹園などは踏査できなかったので、遺跡がないのではなく分からなかったというほうが正しいのです。したがって開発予定地が遺跡範囲外であっても試掘調査を必要とする場所があることを特記します。

牟礼村遺跡詳細分布調査報告書

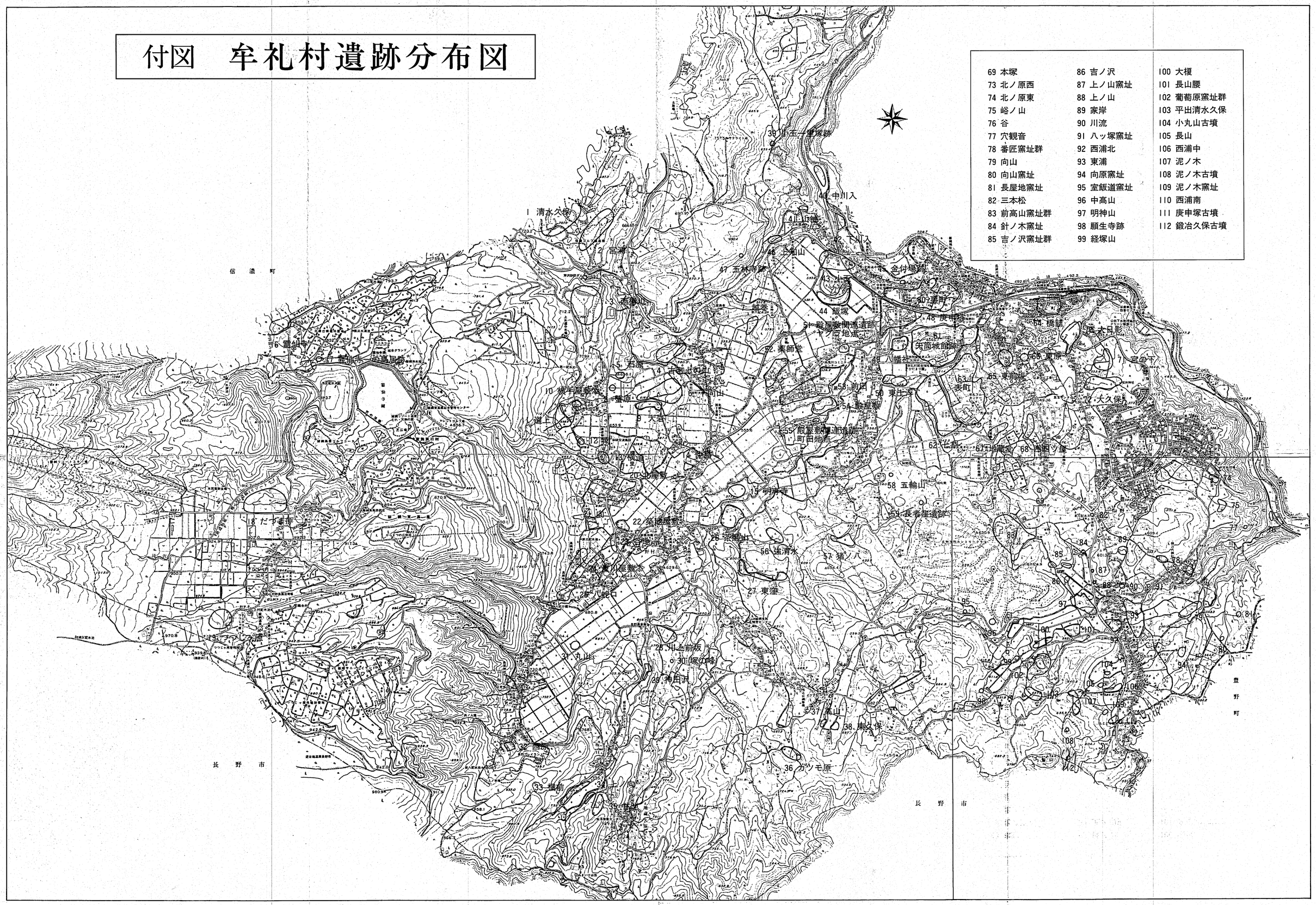
――国宝重要文化財等保存整備（国庫補助）事業――

発 行 日　平成12年３月31日

編集発行　牟礼村教育委員会

印　　刷　ほおずき書籍株式会社
〒381-0012 長野県長野市柳原2133-5

付図　牟礼村遺跡分布図


69 本塚
73 北ノ原西
74 北ノ原東
75 峪ノ山
76 谷
77 穴観音
78 番匠窯址群
79 向山
80 向山窯址
81 長屋地窯址
82 三本松
83 前高山窯址群
84 針ノ木窯址
85 吉ノ沢窯址群
86 吉ノ沢
87 上ノ山窯址
88 上ノ山
89 家岸
90 川流
91 八ッ塚窯址
92 西浦北
93 東浦
94 向原窯址
95 室飯道窯址
96 中高山
97 明神山
98 願生寺跡
99 経塚山
100 大榎
101 長山腰
102 葡萄原窯址群
103 平出清水久保
104 小丸山古墳
105 長山
106 西浦中
107 泥ノ木
108 泥ノ木古墳
109 泥ノ木窯址
110 西浦南
111 庚申塚古墳
112 鍛冶久保古墳
信濃町
長野市
豊野町
1 清水久保
2 宮裏
4 上町山
5 石原
6 向出
9 大岩
10 横手屋敷
12 鞍原
13 横道
14 曽根
17 明専寺
18 たつま坂
20 北屋敷
22 美地屋敷
23 宮原
25 茶臼山
26 八幡口
27 東窪
28 川上前坂
29 神田沢
30 塚の峰
31 丸山
32 西原
33 堀前
34 上ノ原
36 カツモ原
37 高山
38 東久保
39 川上一里塚跡
40 中川入
41 山崎
42 下川入
43 小平
44 飯塚
45 金付場跡
46 上剣山
47 五林寺跡
48 庚申
50 東上条
51 殿屋敷関連遺跡 ヤクシ地点
52 薬師堂
53 前田
54 殿屋敷
55 殿屋敷関連遺跡 町田地点
56 遠清水
57 猪ノ八
58 五輪山
59 長者窪遺跡
60 表町
61 天満城館跡
62 広町
63 表町
64 八幡社
65 東前坂
66 東原
67 地蔵堂
68 西田ツ塚
70 橋詰
71 宮の下
72 大日影
74 大久保
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112